

**2021年度
大学院社会学研究科
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覧

[発行日: 2021/5/1] 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

[X6000]	社会学基礎演習 1 [菊澤 佐江子] 春学期授業/Spring	1
[X6001]	社会学基礎演習 2 [多喜 弘文] 秋学期授業/Fall	2
[X6002]	社会学基礎演習 3 [菊澤 佐江子] 春学期授業/Spring	3
[X6003]	理論社会学 1 (教育格差の計量社会学的研究) [多喜 弘文] 春学期授業/Spring	4
[X6004]	理論社会学 2 (相互作用論) [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	5
[X6005]	理論社会学 4 (ベーシックインカム研究) [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	5
[X6006]	理論社会学基礎 1 [徳安 彰] 春学期授業/Spring	6
[X6007]	理論社会学基礎 2 [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	7
[X6008]	社会学特殊研究 1 (変化/不変化の社会学) [堀川 三郎] 春学期授業/Spring	8
[X6009]	社会学特殊研究 2 (若者問題の現状と課題) [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	9
[X6010]	社会学特殊研究 2 (社会運動としての成人教育運動の国際的展開) [荒井 容子] 春学期授業/Spring	10
[X6011]	社会学特殊研究 3 (文化社会学) [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	11
[X6012]	社会学特殊研究 4 (歴史社会学) [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	12
[X6014]	社会学特殊研究 5 [仁平 典宏] 春学期集中/Intensive(Spring)	13
[X6015]	社会学特殊研究 6 [水島 久光] 春学期集中/Intensive(Spring)	14
[X6016]	統計分析法 [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	15
[X6017]	調査研究法 [中筋 直哉] 春学期前半/Spring(1st half)	16
[X6018]	質的資料分析法 [田嶋 淳子] 春学期後半/Spring(2nd half)	17
[X6019]	メディア社会学基礎演習 1 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	18
[X6020]	メディア社会学基礎演習 2 [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	18
[X6021]	メディア社会学基礎演習 3 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	19
[X6022]	メディア理論 1 (メディアの歴史と思想) [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	20
[X6023]	メディア理論 3 (ジャーナリズム研究) [別府 三奈子] 秋学期授業/Fall	21
[X6024]	メディア理論 4 [北原 利行] 春学期授業/Spring	21
[X6025]	メディア特殊研究 1 (ブランド広告の意味研究) [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	22
[X6026]	メディア特殊研究 2 (データリテラシー) [萩原 雅之] 春学期授業/Spring	23
[X6027]	メディア特殊研究 3 (知的財産権法) [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	24
[X6028]	メディア社会学特殊研究 2 (アイドル学) [稲増 龍夫] 秋学期授業/Fall	25
[X6029]	取材文章実習 [高瀬 文人] 秋学期授業/Fall	26
[X6030]	調査報道実習 1 [藤代 裕之] 秋学期授業/Fall	27
[X6031]	調査報道実習 2 [川島 浩誉] 春学期集中/Intensive(Spring)	28
[X6033]	学際研究 3 (歴史学の方法とその歴史・現在) [愼 蒼宇] 春学期授業/Spring	29
[X6034]	学際研究 4 (社会ネットワークと組織) [宇野 斉] 春学期授業/Spring	30
[X6036]	社会科学研究法 1 [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	31
[X6037]	社会科学研究法 2 [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	31
[X6040]	外国書講読 1 (英語) [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	32
[X6041]	外国書講読 2 (英語) [樋口 明彦] 秋学期授業/Fall	33
[X6042]	外国書講読 1 (英語) [鈴木 宗徳] 春学期授業/Spring	33
[X6043]	外国書講読 2 (英語) [鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	34
[X6044]	外国書講読 1 (仏語) [高橋 愛] 春学期授業/Spring	35
[X6045]	外国書講読 2 (仏語) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	36
[X6046]	外国書講読 1 (独語) [三浦 美紀子] 春学期授業/Spring	36
[X6047]	外国書講読 2 (独語) [三浦 美紀子] 秋学期授業/Fall	37
[X6048]	外国書講読 1 (中国語) [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	38
[X6049]	外国書講読 2 (中国語) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	39
[X6050]	社会学原典講読 [小林 直毅] 春学期授業/Spring	40
[X6340]	社会学総合演習 A [社会学研究科教員] 春学期集中/Intensive(Spring)	41
[X6341]	社会学総合演習 B [社会学研究科教員] 秋学期集中/Intensive(Fall)	42
[X6342]	社会学研究 1 [ジョナサン・ブラウン] 秋学期授業/Fall	42
[X6343]	社会学研究 2 [仁平 典宏] 春学期集中/Intensive(Spring)	44
[X6344]	社会学研究 3 [水島 久光] 春学期集中/Intensive(Spring)	45
[X6345]	社会調査法 1 [中筋 直哉] 春学期前半/Spring(1st half)	46
[X6346]	社会調査法 2 [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	47

【X6347】	社会調査法3 [田嶋 淳子] 春学期後半/Spring(2nd half).....	48
【X6349】	社会学原典研究2 [小林 直毅] 春学期授業/Spring.....	49

SOC600E1 - 1100

社会学基礎演習 1

菊澤 佐江子

備考（履修条件等）：「社会学基礎演習 3」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会学基礎演習 1」は、社会学コースの修士課程 1 年生を対象とした必修科目である。ここでは、大学院での研究の進め方、修士論文のテーマ設定、論文の構成の仕方を修得し、各自が修士課程における研究の計画・論文の構想を立てるまでを支援する。

【到達目標】

各自の問題関心と論文テーマを確定し、研究の方法を模索すると同時に具体的な研究計画を立てるところまでを課題とする。

「研究」とは何か、「論文を書く」とはどのようなことか、についての基本的な考え方を理解し、春学期末までに、修士論文のテーマ設定、ならびに研究対象と研究方法の選択を行えるようにすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、zoom を使用したオンライン（リアルタイム双方向）での演習を予定しているが、受講者との相談等により、一部の回を対面（又はハイフレックス）とする可能性がある。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。各回 1 人～複数名の報告者を決め、それぞれの「研究計画」「論文構想」について報告し、出席者全員での討議を重ねる。

なお、本演習は「社会学基礎演習 3」（修士課程 2 年対象）と合同で開講する。授業計画は、学年ごとの履修者の人数等により変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第 2 回	修士課程 1 年による報告	問題関心報告
第 3 回	修士課程 2 年による報告	修論構想報告
第 4 回	修士課程 2 年による報告	修論構想報告
第 5 回	修士課程 2 年による報告	修論構想報告
第 6 回	修士課程 1 年による報告	研究計画報告
第 7 回	修士課程 1 年による報告	研究計画報告
第 8 回	修士課程 1 年による報告	研究計画報告
第 9 回	修士課程 2 年による報告	修論中間報告
第 10 回	修士課程 2 年による報告	修論中間報告
第 11 回	修士課程 2 年による報告	修論中間報告
第 12 回	修士課程 1 年による報告	修論構想報告
第 13 回	修士課程 1 年による報告	修論構想報告
第 14 回	修士課程 1 年による報告	修論構想報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマ・研究構想に沿って、報告の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容（50%）と毎回の議論への参加（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当せず。

【学生が準備すべき機器他】

zoom を使用できるパソコンを準備すること。適宜、学習支援システムも使用する。

【その他の重要事項】

授業の進め方等の詳細は初回授業時に説明するので、履修予定者は、必ず初回授業に出席すること。初回の zoom 情報等の詳細は「学習支援システム」に記載予定。

【担当教員の専門分野等】

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/22/0002105/profile.html>

【Outline and objectives】

The main aim of this seminar is to work out the details of each individual research plan for writing a master's thesis.

SOC600E1 - 1101

社会学基礎演習2

多喜 弘文

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、社会学コースの修士課程1年生を対象とした必修科目である。修士論文の作成・執筆に向けて、研究主題の明確化とそのための方法選択に照準化して、研究デザインの構築をめざす。併せて、学術論文作成に必要な文章の書き方を学ぶことも目標とする。

【到達目標】

それぞれが執筆する修士論文のテーマを明確化し、これを具体的に回答可能な「問い」として定式化する。研究目的に照らして適切な方法と研究対象（素材・データ）を選択し、先行研究の整理を行う。最終的に、修士論文の序章に相当する文章の作成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生各自の報告を行う。zoomを用いた同時双方向型のオンライン授業を予定している（ただし、受講生の人数、希望および感染症の状況に応じて対面授業の可能性も検討する）。課題等へのフィードバックは、授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の目的と進め方を説明する
第2回	論文の主題と方法 (1)	過去の論文に学ぶ(1)
第3回	論文の主題と方法 (2)	過去の論文に学ぶ(2)
第4回	論文の主題と方法 (3)	過去の論文に学ぶ(3)
第5回	論文の主題と方法 (4)	過去の論文に学ぶ(4)
第6回	修士論文の構想報告 (1)	論文構想の報告と検討(1)
第7回	修士論文の構想報告 (2)	論文構想の報告と検討(2)
第8回	修士論文の構想報告 (3)	論文構想の報告と検討(3)
第9回	修士論文の構想報告 (4)	論文構想の報告と検討(4)
第10回	修士論文序章の作成 (1)	論文序章の文章化と検討(1)
第11回	修士論文序章の作成 (2)	論文序章の文章化と検討(2)
第12回	修士論文序章の作成 (3)	論文序章の文章化と検討(3)
第13回	修士論文序章の作成 (4)	論文序章の文章化と検討(4)
第14回	まとめ	レポートの提出と総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する

【参考書】

適宜、授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】

演習での報告(30%)、議論への参加(30%)、レポート(40%)

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会階層論、教育社会学、比較社会学

<研究テーマ>教育と不平等の社会学的実証研究

<主要研究業績>

『学校教育と不平等の比較社会学』（ミネルヴァ書房、2020）

【Outline and objectives】

This is a required course for first-year Master's degree students of sociology. This course helps students to design study plan for writing a master thesis.

SOC600E1 - 1102

社会学基礎演習3

菊澤 佐江子

備考（履修条件等）：「社会学基礎演習1」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会学基礎演習3」は、社会学コースの修士課程2年生を対象とした必修科目である。ここでは、修士論文の構想、研究の進め方、完成までの筋道の立て方を、受講者全員の議論を通じて考えていく。

【到達目標】

春学期末までに、修士論文の章立て、ならびに最終的な研究計画を確定することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、zoomを使用したオンライン（リアルタイム双方向）での演習を予定しているが、受講者との相談等により、一部の回を対面（又はハイフレックス）とする可能性がある。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。各回1人～複数名の報告者を決め、それぞれの「研究計画」「論文構想」について報告し、出席者全員での討議を重ねる。

なお、本演習は「社会学基礎演習1」（修士課程1年対象）と合同で開講する。授業計画は、学年ごとの履修者の人数等により変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第2回	修士課程1年による報告	問題関心報告
第3回	修士課程2年による報告	修論構想報告
第4回	① 修士課程2年による報告	修論構想報告
第5回	② 修士課程2年による報告	修論構想報告
第6回	③ 修士課程1年による報告	研究計画報告
第7回	① 修士課程1年による報告	研究計画報告
第8回	② 修士課程1年による報告	研究計画報告
第9回	③ 修士課程2年による報告	修論中間報告
第10回	① 修士課程2年による報告	修論中間報告
第11回	② 修士課程2年による報告	修論中間報告
第12回	③ 修士課程1年による報告	修論構想報告
第13回	① 修士課程1年による報告	修論構想報告
第14回	② 修士課程1年による報告	修論構想報告
	③	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマ・研究構想に沿って、報告の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容（50%）と毎回の議論への参加（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当せず。

【学生が準備すべき機器他】

zoomを使用できるパソコンを準備すること。適宜、学習支援システムも使用する。

【その他の重要事項】

授業の進め方等の詳細は初回授業時に説明するので、履修予定者は、必ず初回授業に出席すること。初回のzoom情報等の詳細は「学習支援システム」に記載予定。

【担当教員の専門分野等】

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/22/0002105/profile.html>

【Outline and objectives】

The main aim of this seminar is to work out the details of each individual research plan for writing a master's thesis.

SOC500E1 - 1200

理論社会学 1 (教育格差の計量社会学的研究)

多喜 弘文

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教育機会の不平等 (教育格差) について、計量的手法を用いて社会的に研究していく方法を学ぶ。

【到達目標】

機会の不平等と結果の不平等の違いを理解し、教育格差の研究の何が社会的であるのかを説明できるようになる。計量的な手法の基礎を理解し、関連領域の文献を読めるようになる。一次分析と二次分析の違いを踏まえ、どのように実証的知見を積み重ねていくのかをイメージできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回事前に購読する文献を指示する。講義では担当者がその内容の要約の報告をおこない、それにもとづいて全員で議論をおこなう。zoom を用いた同時双方向型のオンライン授業を予定している (ただし、受講生の人数、希望および感染症の状況に応じて対面授業の可能性も検討する)。課題等へのフィードバックは、授業内に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	教育の不平等とは何か
第 2 回	機会の不平等と結果の不平等	機会の不平等と結果の不平等の違いを理解する
第 3 回	教育格差に関する理論①	教育社会学のリーディングスを読む①
第 4 回	教育格差に関する理論②	教育社会学のリーディングスを読む②
第 5 回	教育格差に関する理論③	教育社会学のリーディングスを読む③
第 6 回	教育格差の実証研究①	社会階層論のリーディングスを読む①
第 7 回	教育格差の実証研究②	社会階層論のリーディングスを読む②
第 8 回	教育格差の実証研究③	社会階層論のリーディングスを読む③
第 9 回	各自の研究報告①	受講生の研究関心に応じた報告とディスカッション
第 10 回	各自の研究報告②	受講生の研究内容に応じた報告とディスカッション
第 11 回	教育格差の研究に向けて①	計量的方法の基礎
第 12 回	教育格差の研究に向けて②	社会調査と一次分析・二次分析
第 13 回	教育格差の研究に向けて③	先行研究に何をどう付け加えるのか
第 14 回	まとめ	教育格差の理論と方法

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回指定された文献を読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しない

【参考書】

松岡亮二, 2019, 『教育格差』ちくま新書。

J. カラベル・A.H. ハルゼー編, 1980 (訳書), 『教育と社会変動—教育社会学のパラダイム展開 (上下)』東京大学出版会。

ヒュー・ローダー他編, 2012 (訳書), 『グローバル化・社会変動と教育 (1、2)』東京大学出版会。

Becker, Rolf, 2019, Research Handbook on the Sociology of Education, Edward Elgar.

その他必要に応じて適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への取り組み (報告内容および議論への積極的姿勢) 50 %、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし (前年度は担当していない)

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業をパソコンで受けられる設備と環境

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会階層論, 教育社会学, 比較社会学

<研究テーマ> 教育と不平等の社会学的研究

<主要研究業績> 『学校教育と不平等の比較社会学』(ミネルヴァ書房, 2020 年)

【Outline and objectives】

This course reviews theoretical and methodological literature on the educational inequality from sociological perspective.

SOC500E1 - 1201

理論社会学2（相互作用論）

鈴木 智之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

相互作用論に関する基礎的文献を購読し、特に「身体」的外観に関わる問題についての社会的分析視点を獲得することを目的とする。

【到達目標】

E. ゴフマンを中心とした相互作用論に関する理論書を講読し、その基本的な考え方を理解する。

身体的外観と相互作用秩序に関する研究所を読み、その固有の問題群を明らかにする。

そこで学んだ考え方を、各自の研究課題に適用し、研究の構想を立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読を中心とした演習形式の授業を行う。

可能な限り、多摩キャンパスでの対面授業とする予定であるが、受講生の希望に応じて、オンラインでも参加も可とする。

課題に対するフィードバックは毎回のディスカッションの中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	問題の設定	相互作用秩序と身体
第2回	テキストの講読（1）	E. ゴフマン「集まりの構造」
第3回	テキストの講読（2）	E. ゴフマン「集まりの構造」
第4回	テキストの講読（3）	E. ゴフマン「集まりの構造」
第5回	テキストの講読（4）	E. ゴフマン「集まりの構造」
第6回	テキストの講読（5）	E. ゴフマン「スティグマ」
第7回	テキストの講読（6）	E. ゴフマン「スティグマ」
第8回	テキストの講読（7）	E. ゴフマン「スティグマ」
第9回	テキストの講読（8）	草柳千早「日常の最前線としての身体」
第10回	テキストの講読（9）	草柳千早「日常の最前線としての身体」
第11回	研究構想の報告（1）	受講生による報告
第12回	研究構想の報告（2）	受講生による報告
第13回	研究構想の報告（3）	受講生による報告
第14回	研究構想の報告（4）	受講生による報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指定されたテキストを事前に読み、指名されたものはその要旨を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

E. ゴフマン『集まりの構造』誠信書房、1980年

E. ゴフマン『スティグマ』せりか書房、2001年

草柳千早『日常の最前線としての身体』世界思想社、2015年

【参考書】

随時指示する

【成績評価の方法と基準】

この科目成績は、毎回の報告とディスカッションへの貢献を総合的に評価してつけます（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

身体的相互作用論ですら、対面で実施できることを祈っています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 理論社会学、文化社会学

<研究テーマ> 語りの社会学

<主要研究業績> 『顔の剥奪』青弓社

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to acquire the analytical point of view on the problem of bodily appearance in the social order through reading of the classical texts of interactionist theory.

SOC500E1 - 1203

理論社会学4（ベーシックインカム研究）

岡野内 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ベーシックインカム研究の前提となる社会理論として、マルクスの資本研究の概要をつかむ。この授業では、『資本論』第1巻の読了を前提に、第2巻、第3巻を読み、その内容を理解できるようにする。ここでは、第1巻に比して、より具体的な流通過程論、再生産過程論、利潤論、信用論、地代論などを踏まえた階級分析の基礎が展開されている。

【到達目標】

テキストの基本的な内容を理解し、批判的な読解力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ZOOMを利用して、オンラインで実施する。いわゆる読書会形式で、担当者を決めてテキストを読み、要約と疑問点、論点を出し合い、議論しつつ解決していきます。授業支援システムの掲示板に、毎回の授業の箇所について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④議論したい論点、を書き込んでいきます。課題などへのフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方についての打ち合わせ。この授業テーマに関する自由討論による授業に取り組むうえでの問題意識の明確化。
第2回	資本論第1巻の内容について	第1巻の内容の概要に関する報告と討論。
第3回	資本論第2・3巻。資本循環論。	テーマに関する報告と討論。
第4回	資本循環の三つの形態について	テーマに関する報告と討論。
第5回	固定資本について	テーマに関する報告と討論。
第6回	商人資本論	テーマに関する報告と討論。
第7回	利子、信用、金融について	テーマに関する報告と討論。
第8回	信用制度論	テーマに関する報告と討論。
第9回	信用・銀行制度の役割論	テーマに関する報告と討論。
第10回	資本にかかわる時間と空間の理論	テーマに関する報告と討論。
第11回	資本の循環と回転について	テーマに関する報告と討論。
第12回	資本の再生産論	テーマに関する報告と討論。
第13回	固定資本と生産拡張の理論	テーマに関する報告と討論。
第14回	地代論	テーマに関する報告と討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの掲示板に、毎回の授業についての書き込みをする必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

カール・マルクス『資本論』第2巻、第3巻。（いくつか翻訳があり、どれでも大丈夫です。インターネットで、無料で見れるサイト「英和訳資本論」のサイトもあります。<https://sites.google.com/site/heyzibenlun/> いつでも見れるし、英語版もあり、ドイツ語、フランス語へのリンクもあって便利です。本になっているものでは、新しい翻訳のほうがわかりやすいので、古い訳の岩波文庫などは、避けた方がいいかもしれません。）

【参考書】

デヴィッド・ハーヴェイ『<資本論>第2巻・第3巻入門』作品社、2016年。その他、図書館に行くと、多くの解説本があります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加と、毎回の授業についての書き込みの4つの論点について、25点ずつ合計100点で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板を用いて、公開で議論を進めるやり方が役に立ったという意見に基づいて、引き続き進めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会理論、国際政治経済学

<研究テーマ> グローバル・ベーシック・インカム研究

<主要研究業績>岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年（7月刊行予定）など。

【Outline and objectives】

A seminar class for students who wish to understand the outline of Karl Marx's study on Capital. In this advanced class, the texts of "Capital" Vol. II and Vol. III will be read and discussed with attention to David Harvey's "A Companion to Marx's Capital: The Complete Edition"(Verso: London & New York, 2018).

SOC500E1 - 1300

理論社会学基礎 1

徳安 彰

備考（履修条件等）：学部「社会学史 I」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 19 世紀から 20 世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、大学院で研究を進めるための素養として古典的諸理論を知るとともに、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念をしり、かつ原典を通して理解できるようになること、さらに「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの授業内掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。掲示板への直接の書き込みも歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19 世紀から 20 世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	マルクス (1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
4	マルクス (2)	疎外、使用価値と交換価値
5	ヴェーバー (1)	合理化、合理性の諸類型
6	ヴェーバー (2)	資本主義の精神、鉄の檻
7	ヴェーバー (3)	支配の諸類型、官僚制
8	デュルケム (1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
9	デュルケム (2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
10	デュルケム (3)	聖と俗、集会的沸騰
11	ジンメル (1)	社会化の形式、社会圏
12	ジンメル (2)	支配と従属の諸類型
13	ジンメル (3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性
14	まとめ	扱った主要な社会学者の理論の共通の問題意識をふり返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未來社
 ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新陸人（編）『社会学の歩み』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末試験は論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
 <研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
 <主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline and objectives】

We study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. We focus especially on the social background of that time to understand the major sociological theories.

SOC500E1 - 1301

理論社会学基礎2

徳安 彰

備考（履修条件等）：学部「社会学史Ⅱ」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに20世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、大学院での研究を進めるための基本的素養として、社会学の現代的諸理論を知るとともに、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念をしり、かつ原典を通して理解できるようになること、さらに「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの授業内掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。掲示板への直接の書き込みも歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	Iとme、一般化された他者、役割
4	シュッツ	日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	バーガー／ルックマン	社会的世界の複数か、聖なる天蓋
6	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
7	ゴッフマン	ドラマトゥルギー、印象操作
8	パーソンズ	ダブル・コンティンジェンシー、社会進化
9	ルーマン	ダブル・コンティンジェンシー、社会分化
10	ハーバーマス	コミュニケーションの行為
11	ギデンズ	モダニティ
12	フーコー	規律化、主体、生権力
13	ブルデュー	文化資本、再生産
14	ベック	リスク社会、個人化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新陸人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
 新陸人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末試験は論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会システム理論
 <研究テーマ>グローバル化の中の社会システム
 <主要研究業績>学術研究データベースを参照

【Outline and objectives】

We study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. We focus especially on the social background of that time to understand the major sociological theories.

SOC500E1 - 1205

社会学特殊研究 1（変化／不変化の社会学）

堀川 三郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学はその創始から、社会の変化を「A から B へ」「○○化」という図式で記述してきた。例えば「ゲマインシャフトからゼゼルシャフトへ」（テニエス）や「脱呪術化」（ウェーバー）が有名である。こうした図式的理解の根幹は、「変化の把握」である。「変化」を「変動」と言い換えてもよいが、いずれにせよここで重要なことは、こうした把握方法では変化することは当然のことと見なされ、それがどこへ向かうのかその見通しを立てることこそが主要な関心であった、ということだ。

しかし、この授業では変化することを自明視せず、「変化しないこと」へと視野を拡大していこうと思う。換言すれば、社会学の知的伝統に則って「変化をどのようにとらえるか」を検討するのみならず、その変化の仕方や変化の制御過程、さらには「変化しないもの」をも把握しようと試みる。具体的には、いくつかの文献を「変化／不変化」という観点から精読して議論の土台を共有してから、受講者それぞれの研究テーマ・素材を持ち寄り、変化／不変化をいかに語りうるのか、方法的拡張を意識しながら検討を加えていくことにする。人数にもよるが、持ち寄る素材は、受講者の修士論文、博士論文、学会報告、投稿論文などの草稿で構わない。それらの完成・洗練化に役立つような授業にしていくつもりである。担当教員の専門から、都市や地域、環境に関心を寄せる院生の参加を期待しているが、それ以外の領域でも受講を歓迎する。自らの論文完成のために、本授業をおおいに「利用」して欲しい。

【到達目標】

自らの研究テーマを、「A から B へ」「○○化」という図式で記述し、具体的なデータに基づいて議論を展開できる能力の涵養を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの講読、院生による研究報告、全員での討論、などで構成する。受講者と相談して授業形態を決めたいが、原則として対面形式で実施する。受講者の意向があればオンラインでの参加も認める。したがって第1回の授業はオンラインを併用して実施する。オンラインでのアクセス方法は、学習支援システムの「授業情報」を通して連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業への導入
第2回	文献講読 [1]	テーマ探究のための文献講読
第3回	文献講読 [2]	テーマ探究のための文献講読
第4回	文献講読 [3]	テーマ探究のための文献講読
第5回	文献講読 [4]	テーマ探究のための文献講読
第6回	文献講読 [5]	テーマ探究のための文献講読
第7回	文献講読 [6]	テーマ探究のための文献講読
第8回	文献講読 [7]	テーマ探究のための文献講読
第9回	受講者のテーマ報告および討論 [1]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第10回	受講者のテーマ報告および討論 [2]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第11回	受講者のテーマ報告および討論 [3]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第12回	受講者のテーマ報告および討論 [4]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第13回	受講者のテーマ報告および討論 [5]	受講者の報告を受けて、研究深化のための討論
第14回	まとめ	まとめと総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

履修者と相談のうえ、決定する。

【参考書】

講読文献は、受講者と相談したうえで決定するが、下記は候補文献の一部である。これに縛られず、履修者の関心領域とすり合わせながらフレキシブルに対応する予定である：

- [1] 堀川三郎 (2018) 『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会的分析』東京大学出版会。
 [2] 森久聡 (2016) 『<瀬の浦>の歴史保存とまちづくり：環境と記憶のローカル・ポリティクス』新曜社。
 [3] Page, Max (2016) *Why Preservation Matters* (Why X Matters Series). New Heaven, CT: Yale University Press.

[4] 水村美苗 (2008) 2015) [増補 日本語が亡びるとき：英語の世紀の中で] (ちくま文庫み-25-4) 筑摩書房。

[5] 藤田弘夫 (2003) 『都市と文明の比較社会学：環境・リスク・公共性』東京大学出版会。

[6] Holleran, Michael (1998) *Boston's "Changeful Times": Origins of Preservation and Planning in America* (Creating the North American Landscape). Baltimore, MD: Johns Hopkins University Press.

[7] Barthel, Diane (1996) *Historic Preservation: Collective Memory and Historical Identity*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

【成績評価の方法と基準】

討論での貢献度で評価する (100%)。人数によってはレポートを課すが、その場合の成績評価は、討論への貢献 50%、レポート評価 50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

定期的に院生の意見を聞きながら、運営する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学, 都市社会学

<研究テーマ>歴史的環境保存の社会学, 日米比較社会論

<主要研究業績>『町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析』(東京大学出版会, 2018年), *Why Place Matters* (Springer, 2021年) など

【Outline and objectives】

Since its founding, sociology has described social change through formulaic expressions such as “from A to B” or in terms of “-cations” and “-zations”. Ferdinand Tönnies’ “from Gemeinschaft to Gesellschaft” and Max Weber’s “Disenchantment (Entzauberung)” are two well-known examples. At the heart of this formulaic understanding is understanding change. The words “change” and “transformation” may be interchangeable, but in any case, what is important here is that this method of understanding considers change as a natural process, and sociology’s major concern was to create insight as to where that change might lead.

In this course, however, we do not accept change as inevitable and will expand our horizons to that of “unchanging”, or not changing. To put it differently, not only do we examine how change should be interpreted in accordance with the intellectual traditions of sociology, but we also attempt to understand the ways in which changes occur, the control processes involved, and finally, what we refer to as “un/change.” Specifically, once we conduct a close reading of the literature from the perspective of un/change for a shared foundation for argumentation, students will bring materials for their research topics to class, where we will investigate how they can be discussed in terms of un/change, ever conscious of methodological expansion during our investigations. While it depends on the number of students, materials for research can be drafts of students’ master’s theses, doctoral dissertations, academic conference presentations, or articles for publishing. This course is intended to help students complete and refine their work. The instructor’s expertise lies in cities, communities, and the environment and expects graduate students with similar interests to join but welcomes students from other areas as well. The instructor wishes that students “use” this class to complete their theses and dissertations.

SOC500E1 - 1206

社会学特殊研究2 (若者問題の現状と課題)

樋口 明彦

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1990年代半ば以降、雇用の不安定化は、日本の若者の社会的地位に大きな影響を及ぼすことになった。その結果、教育・雇用・社会保障を視野に入れた若者政策の整備が本格的に進展するようになる。本科目では、日本語文献を丹念に読みながら、若者政策の現状と課題を検討する。

【到達目標】

日本における若者問題の多様性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

参加者の関心に合わせて、教科書から9本のテキストを選び、学生による報告およびディスカッションを行う。3回の購読ごとに、講読論文のテーマに基づいて、それぞれの学生が海外の事例報告を行い、国際比較ワークショップを行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

・本授業は、Zoomを使用してオンラインで実施する。オンラインでのアクセス方法は、学習支援システムの「授業情報」を通して連絡する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	日本の若者政策について
2	第1論文購読	学生報告およびディスカッション
3	第2論文購読	学生報告およびディスカッション
4	第3論文購読	学生報告およびディスカッション
5	第1～第3論文のテーマに基づく国際比較ワークショップ	ディスカッション
6	第4論文購読	学生報告およびディスカッション
7	第5論文購読	学生報告およびディスカッション
8	第6論文購読	学生報告およびディスカッション
9	第4～第6論文のテーマに基づく国際比較ワークショップ	ディスカッション
10	第7論文購読	学生報告およびディスカッション
11	第8論文購読	学生報告およびディスカッション
12	第9論文購読	学生報告およびディスカッション
13	第7～第9論文のテーマに基づく国際比較ワークショップ	ディスカッション
14	まとめ	若者政策の課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献購読、学生報告のレジュメ作成、国際比較ワークショップのレジュメ作成
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

乾彰夫・本田由紀・中村高康編、2017、『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

※授業開始後の指示があるまで、購入しないこと

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- ①報告 (50%)
- ②ディスカッション (50%)

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やす。

【専門領域】

社会政策

【研究テーマ】

若者政策

【主要研究業績】

乾彰夫・本田由紀・中村高康編、2017、『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

【Outline and objectives】

The lecture on youth policy

社会学特殊研究2（社会運動としての成人教育運動の国際的展開）

荒井 容子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

成人教育政策とは一線を画す、成人教育運動は社会運動としての性格をもって各国で発展し、国際機関の発達と並行して、国際的運動としても発展してきた。その過程は、国内、国際双方で、権力による政策展開と緊張関係をもって展開されてきた。また同じ成人教育運動として、国内と国際双方の関係のあり方も模索されてきた。これらの具体的な歴史を、事例をもとに概観しながら、それらの関係について、分析していく。

【到達目標】

この講義では、成人教育の運動が本質的にもつその社会運動としての性格を理解し、そのうえで、成人教育運動の国内及び国際的な展開と、成人教育施策の展開との関係、社会運動の展開との関係について考え、また、今後の成人教育運動のあり方を考える力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回 講義内容をもとに、議論をしていく。事前に資料を配布して検討してきてもらい、議論をする場合もある。本授業は、Zoom を使用してオンラインで実施する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	成人教育運動をどうとらえるか（ガイダンス）	学習運動・成人教育運動と社会運動との関係
第2回	成人教育運動の国内展開と国際的展開（1）	WEA（英国労働者教育協会）の諸外国への影響
第3回	成人教育運動の国内展開と国際的展開（2）	成人教育「世界組織」の結成と世界大会
第4回	国際機関を通じた成人教育運動のはじまり（1）	ユネスコ成人教育会議の開催と展開
第5回	国際機関を通じた成人教育運動のはじまり（2）	ユネスコ教育研究所の発足と展開 －その後のユネスコ生涯学習研究所としての展開
第6回	国際機関から独立した国際的成人教育運動のはじまり	国際成人教育協議会の発足
第7回	社会運動と国際的政策の展開	(1) 1970～80年代の展開
第8回	社会運動と国際的政策の展開（2）	1990年代以降の展開
第9回	成人教育運動と社会運動の国際的展開における関係（1）	1970～80年代の展開
第10回	成人教育運動と社会運動の国際的展開における関係（2）	1990年代以降の展開
第11回	成人教育運動の国際的展開の意味（1）	成人教育の国際的政策との関係
第12回	成人教育運動の国際的展開の意味（2）	成人教育の各国における政策との関係
第13回	成人教育運動の国際的展開の意味（3）	各国の成人教育運動との関係
第14回	社会運動としての成人教育運動の国際的展開の意味	まとめ－総括討議－

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料を配布した場合には、目を通していただく。紹介した文献等、各自積極的に読んでいただく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した作成したファイルを、学習支援システムを通じて事前に配布するほか、適宜指示する。

【参考書】

国際成人教育協議会 (International Council for Adult Education) のホームページ <http://icae.global/>
ユネスコ生涯学習研究所 (The UNESCO Institute for Lifelong Learning) のホームページ <https://uil.unesco.org/>

【成績評価の方法と基準】

講義時の討議への積極的参加の度合いを 30 %、報告担当時のレジュメの質－該当箇所の理解度、分析の質を 30 %、最終レポート（テーマに関しての理解度と独自の見解の存在及びその質）を 40 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

成人教育に関する事前の学習が不足している場合の配慮、対応の必要。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応するための機器等

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会教育学

<研究テーマ> 成人教育運動、社会教育法制度、社会教育実践、公民館、

社会教育職員

<主要研究業績>

① 国際成人教育協議会 (ICAE) の課題意識発展の過程

－成人教育運動の国際的展開に関する研究（1）－

『社会志林』（法政大学社会学部紀要）第 54 巻 第 3 号

（2007 年 12 月）p.55-74

② 「成人教育運動の国際的連帯（4）

－第 6 回国際成人教育会の本会議（ベレン会議）の概要と日本国内の動き－

『月刊社会教育』No.655 2010 年 5 月号, pp.63-69

③ 「社会教育法と国際的動向」社会教育推進全国協議会『社会教育法 60 年－権利としての社会教育を活かす』2010 年 8 月 28 日 pp.66-75

④ 「『成人教育運動の国際的展開』を追い続けて気づかされたこと」

教育実践検討会編『問い続けるわれら－生涯学習人として生きる』第 2 集

「教育実践検討会」発行 2012 年 4 月 1 日 pp.320-346

⑤ 「第 3 編-2 社会教育・生涯学習の国際的動向（国際機関・欧米）」

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』

第 8 版 エイデル研究所 2011 年 7 月 30 日 pp.202-217

⑥ 解説「成人教育の発展に関する助言」pp.350-351

「カナダの成人教育・生涯学習」pp.78-79

「国際成人教育協議会」p.162

「ユネスコ『大衆の文化的な生活への参加及び寄与を促進する助言』」

p.596

「ハンブルク宣言」p.504

「ユネスコ国際成人教育会議」pp.595-596

社会教育・生涯学習辞典編集委員会編『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012 年 11 月 30 日

⑦ 「第 3 編-2 社会教育・生涯学習の国際的動向（国際機関・組織）」

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』

第 9 版 エイデル研究所 2017 年 10 月 10 日 pp.247-263

⑧ 「ユネスコ第 6 回国際成人教育会議のための国内『草の根会議』編著

『日本の社会教育・成人教育 最近 12 年の政策・実践・運動: 分析と提言

－第 6 回国際成人教育会議 (CONFINTEA VI) に向けた

市民社会組織からの報告－』(デジタル版) 2009 年 11 月 23 日

<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yarai/JDGMCON6/CSOsREPfinaljpcore100321.pdf> (英語版)

Social Education/Adult Education in Japan Policies, Practices and Movements

during the last 12 years: Analysis and Recommendations

－ A Report from Civil Society Organizations to the Sixth International Conference

for Adult Education (CONFINTEA VI) - (CSOs report)

written and edited by Japanese Domestic Grass-roots Meeting for CONFINTEA VI (digital), November 2009

<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yarai/JDGMCON6/CSOsREPfinalencore100107.pdf>)

⑨ 「カナダの成人識字教育者たち

－困難な中、実践のための研究運動を切り開く－」

『月刊社会教育』No.606 2006 年 4 月号 pp.64-70

⑩ 「ユネスコ第 6 回国際成人教育会議中間総括会議（スウォン）と

コミュニティ・ラーニングセンターをめぐる議論

－ドイツ成人教育協会国際部主催のサイドイベントに注目して－」

『日本公民館学会年報』第 15 号 2018 年 12 月 10 日 pp.68-74

【Outline and objectives】

This course reviews the history of adult education movements, especially international ones, and has two focuses. One is on the relation between domestic movements and international ones. The other focus is on the relation between policy and movements both domestic level and international one. Recognizing complex structure of these relations, we will seek to find out the challenges of adult education movements.

SOC500E1 - 1207

社会学特殊研究3（文化社会学）

武田 俊輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会における文化や歴史的環境、ローカル・アイデンティティに関する文献を読み、またそうした研究を行う上での課題や調査のあり方について検討する。

【到達目標】

地域社会における文化や歴史的環境、ローカル・アイデンティティに関する研究を行う上で必要な理論や必要な視点、また調査を行う上での課題について考察を深め、理解し、自身の研究に活かすことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン（Zoom）での演習形式で実施する。ZoomのID、パスワードは学習支援システムにて提示する。文献講読と受講生の研究報告を中心に進める。文献や担当については初回の授業で相談する。教科書として挙げた文献は、この相談を経た後に入手することを勧める。報告・課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要の説明。講読する文献および担当についての相談
第2回	文献講読1	ハイデン『場所の力』第1部
第3回	文献講読2	ハイデン『場所の力』第2部（前半）
第4回	文献講読3	ハイデン『場所の力』第2部（後半）
第5回	文献講読4	五十嵐泰正『上野新論』（前半）
第6回	文献講読5	五十嵐泰正『上野新論』（後半）
第7回	文献講読6	金善美『隅田川・向島のエスノグラフィ』（前半）
第8回	文献講読7	金善美『隅田川・向島のエスノグラフィ』（後半）
第9回	文献講読8	才津祐美子『世界遺産「白川郷」を生きる』（前半）
第10回	文献講読9	才津祐美子『世界遺産「白川郷」を生きる』（後半）
第11回	受講生による報告1	受講生自身の研究報告（1）
第12回	受講生による報告2	受講生自身の研究報告（2）
第13回	受講生による報告3	受講生自身の研究報告（3）
第14回	まとめ	この授業全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。文献報告については、報告者だけでなく参加者全員が輪読する箇所を読んだうえで授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】

ドロレス・ハイデン,2002,『後藤春彦・篠田裕見・佐藤俊郎訳』『場所の力 パブリック・ヒストリーとしての都市景観』学芸出版社。
五十嵐泰正,2019,『上野新論：変わりゆく街、受け継がれる気質』せりか書房。
金善美,2018,『隅田川・向島のエスノグラフィ：「下町らしさ」のパラドックスを生きる』見洋書房。
才津祐美子,2020,『世界遺産「白川郷」を生きる：リビングヘリテージと文化の資源化』新曜社。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

文献報告（35%）、毎回のディスカッションへの参加（30%）、個人の研究報告（35%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度新規科目につき、アンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

初回授業時に、今後の予定を相談するため、履修予定者は、必ず初回授業に参加すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学
<研究テーマ>文化社会学・地域社会学・都市社会学・メディア論
<主要研究業績>武田俊輔,2020,『コモンズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社

【Outline and objectives】

Students will read some sociological literatures on local culture, historical environment, and local identity, and discuss how to conduct research for such studies.

社会学特殊研究 4（歴史社会学）

鈴木 智道

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀後半を代表する思想家ミシェル・フーコーによる権力論の転回とその射程をテーマに、『狂気の歴史』（1961）から『監獄の誕生』（1975）、さらには『知への意志』（1976）へと至るなかで、フーコーが「権力とは何か」という問いにいかに向き合おうとしていたのか、彼の思考の道筋と概念的な転変を辿りながら考えていく。今年度はとくに「規律権力」概念への着想がいかなるかたちで浮上したのかを探る。

【到達目標】

フーコーの権力論について理解を深め、その理解を自身の研究に生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

前期（1960 年代）から中期（1970 年代）への思想的・概念的な転回点を画した『監獄の誕生』に直接的につながる 1972-73 年度のコレージュ・ド・フランス講義『処罰社会』を読み、現代における監視社会の起源と規律社会の到来を系譜的に辿っていく。

受講者には、事前に割り振られた担当部分について、レジュメの作成と授業内での報告が求められる。担当者による報告の後、当該内容について参加者全員で議論をしていく。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

なお、本授業は対面形式での実施を原則とするが、第 1 回の授業のみオンラインで実施する。オンラインでのアクセス方法は、学習支援システムを通して連絡する。第 2 回以降は、受講者の意向があればオンラインでの参加も認める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～知-権力という問題系	概要説明・スケジュール確認
第 2 回	『処罰社会』第 1 講（1973 年 1 月 3 日）	当該箇所の精読と議論
第 3 回	第 2 講（1973 年 1 月 10 日）	当該箇所の精読と議論
第 4 回	第 3 講（1973 年 1 月 17 日）	当該箇所の精読と議論
第 5 回	第 4 講（1973 年 1 月 24 日）	当該箇所の精読と議論
第 6 回	第 5 講（1973 年 1 月 31 日）	当該箇所の精読と議論
第 7 回	第 6 講（1973 年 2 月 7 日）	当該箇所の精読と議論
第 8 回	第 7 講（1973 年 2 月 14 日）	当該箇所の精読と議論
第 9 回	第 8 講（1973 年 2 月 21 日）	当該箇所の精読と議論
第 10 回	第 9 講（1973 年 2 月 28 日）	当該箇所の精読と議論
第 11 回	第 10 講（1973 年 3 月 7 日）	当該箇所の精読と議論
第 12 回	第 11 講（1973 年 3 月 14 日）	当該箇所の精読と議論
第 13 回	第 12 講（1973 年 3 月 21 日）	当該箇所の精読と議論
第 14 回	第 13 講（1973 年 3 月 28 日）	当該箇所の精読と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全受講者が、文献の指定箇所を事前に読了した上で授業にのぞむこと。報告者は、指定文献についての要約とコメント・問題提起をおこなうべく、レジュメの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ミシェル・フーコー講義集成 3・処罰社会：コレージュ・ド・フランス講義 1972-73 年度』筑摩書房、2017 年。

【参考書】

詳細については開講後に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50 %）と報告の水準（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>歴史社会学、教育社会学

<研究テーマ>家族表象の歴史政治学的分析、歴史の物語論

【Outline and objectives】

The main aim of this seminar is to read carefully M. Foucault's 1972-73 lectures at the Collège de France, and to discuss how the relationship between power and knowledge was constructed in Western Europe, focusing on the origin of the surveillance society.

SOC500E1 - 1209

社会学特殊研究5

仁平 典宏

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会学研究2」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフーコー的言説分析から、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説／社会の関係に関する存在論・認識論的な前提が厳しく問われることもある。

本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的にはワークも活用しながら理解を深めていきたい。

なお受講者は言説研究の経験の有無を問わない。

【到達目標】

- ・言説を社会的に分析する上で、いかなる方法的立場があるか理解できるようになる
- ・それぞれの方法には、どのような前提と課題があるのか理解できるようになる
- ・KH コーダーを用いた計量テキスト分析の基礎的操作ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・コロナの感染が抑えられている場合は対面で行うが、そうでない場合は、Zoom を利用しオンラインで行う。Zoom での授業実施となった場合には、学習支援システムでアドレスやログイン方法等を伝える。

・テーマごとの課題論文を提示するので事前に読んで上で、各自コメントペーパーを作成する。それに基づくディスカッションを行う。

・KH コーダーというフリーのソフトウェアを用いたテキストマイニングの実習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の趣旨と流れを説明する。
第2回	教育言説の分析	「いじめ」など教育問題を取り上げた言説に関する論文を検討する。
第3回	新聞記事から読み取れること	「いじめ」等に関する実際の新聞記事を概観し、どのような変化が見て取れるかを体験・議論するワークを行う。
第4回	方法論的構築主義とは何か	方法論的構築主義の意味と、それがもたらしたインパクトについて検討する。
第5回	方法論的構築主義の展開と困難	方法論的構築主義がどのように発展し、どのような困難に直面しているか検討する。
第6回	言説と公式統計	言説と公式統計の関係について検討する。
第7回	歴史と構築主義	歴史を構築主義的に捉えることの意味について検討する。
第8回	概念分析とは何か	概念分析という手法について理解を深める。

第9回	対話的構築主義をめぐって	対話的構築主義について、その内容と意義を検討する。
第10回	言説と因果推論	言説を扱いつつ、因果関係にいかに向けるか、関連する論文を読んで検討する。
第11回	計量テキスト分析の地平	計量テキスト分析に関する論文を通じて、その特徴について検討する。
第12回	テキストマイニング実習1	KH コーダーの使い方について実習する。
第13回	テキストマイニング実習2	KH コーダーを実際に使って、分析を試みる。
第14回	総括討論	総括討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回に連絡する

【参考書】

佐藤俊樹・友枝敏雄編『言説分析の可能性—社会学的方法の迷宮から』東信堂
スペクター, J.I. & キッセ, M.B. 『社会問題の構築—ラベリング理論を超えて』マルジュ社
中河伸俊・赤川学編『方法としての構築主義』勁草書房
酒井泰斗他編『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版
樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
等

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学（市民社会論、福祉社会学、教育社会学）
<研究テーマ>

日本型生活保障システムの再編下における社会の構造変容と帰結について、セクター間関係、及び、サブシステム間関係に注目して研究している。

<主要研究業績>

『ボランティアの誕生と終焉—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』（名古屋大学出版会、2011年）
『教育学年報11 教育研究の新章』（共編著、世織書房、2019年）
『平成史【完全版】』（共著、河出書房新社、2019年）
『市民社会論—理論と実証の最前線』（共著、法律文化社、2017年）

【Outline and objectives】

It has been produced a lot of sociological studies on discourses, which are based on a variety of theories and methodologies including

social constructionism, Foucauldian discourse analysis, and text-mining using natural linguistic processing. Each study can be reviewed

not only its originality but also the validity of analytical procedure and the ontological/epistemological assumption about the relationship between discourse and society.

The aim of the class is to gain a basic understanding of what sorts of sociological methodologies of analysis of discourse there are and

what presumption and limit each one has. Participants are supposed to read designated texts, to take part in discussions on them actively, and to engage in a trial work.

Participants are not required an experience of studying discourses.

社会学特殊研究6

水島 久光

備考(履修条件等)：博士後期課程「社会学研究3」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

社会学的探究を行う上で、必要な資料の探索はどのように行うのか。あるいは逆に資料との出会いからどのように社会的な問いを立ち上げるのか。アーカイブや資料施設を利用した実践的な授業を行います。

【到達目標】

履修者は、アーカイブや資料施設を利用し、実際に問いを立て、分析実習を行い、小論文を作成します。今回は「アジア太平洋戦争」をテーマに、資料間の関連性と、メディア表現の課題を考えることにより、エビデンスに基づく論述スキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業は対面形式で実施する。

<前半>

7月30日(3,4限) アーカイブ研究と「戦争」(講義)

8月2日(3~5限) 放送アーカイブと映像分析、研究テーマの設定(講義+演習)

8月3日(3~5限) 戦争資料館と一次資料の保全、フィールドワーク(講義+演習)

<後半>

8月11日(3~5限) 中間報告とディスカッション(演習)

8月12日(3~5限) 最終報告と「戦争」研究の今後(演習+講義)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	アーカイブ研究と「戦争」(1)	社会学研究とアーカイブの関係/デジタルアーカイブの発展史
第2回	アーカイブ研究と「戦争」(2)	アジア太平洋戦争に関する資料の保全・継承の課題
第3回	放送アーカイブについて	NHKアーカイブス、放送ライブラリーほかの施設利用について。
第4回	映像分析の方法	どのように映像に向き合うのか、映像文法と意味解釈。
第5回	研究テーマの設定	核となる映像の選択、研究計画の立案。
第6回	戦争関連資料の現状	現状と課題サマリー。
第7回	都内(近郊)資料館のフィールドリサーチ(1)	2館以上を訪問。訪問メモの作成。
第8回	都内(近郊)資料館のフィールドリサーチ(2)	2館以上を訪問。訪問メモの作成。
第9回	中間報告(1)	問題設定、資料分析の報告。
第10回	中間報告(2)	問題設定、資料分析の報告。
第11回	改善に関するディスカッション	追加調査の計画。
第12回	最終報告(1)	得られた知見は何かについて報告。
第13回	最終報告(2)	得られた知見は何かについて報告。

第14回 まとめ講義

戦争の歴史をいかに継承していくか、討議。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。各回の授業時間内では、十分な資料の収集、フィールドリサーチ(訪問)、分析・検討はできません。次回の授業日までに到達すべきラインを示しますので、それを目指して準備を行ってください。

【テキスト(教科書)】

水島久光『戦争をいかに語り継ぐか：「映像」と「証言」から考える戦後史』(NHK出版、2020)

【参考書】

日本平和学会編『戦争と平和を考えるNHKドキュメンタリー』(法律文化社、2020)

福岡良明『戦後日本、記憶の力学』(作品社、2020)

桜井均『テレビは戦争をどう描いてきたか』(岩波書店、2005)

【成績評価の方法と基準】

中間報告(4日目：30%)、最終報告(5日目：30%)、研究計画(2日目：10%)、訪問メモ(3日目：10%)の提出(計80%)+ディスカッションの参加・内容(20%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

映像視聴可能なPCを各自用意のこと。

【その他の重要事項】

必要に応じてZOOMで連絡をとります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学、情報記号論、アーカイブ研究

<研究テーマ>メディアと公共性、表現と倫理

<主要研究業績>『戦争をいかに語り継ぐか』(NHK出版、2020)、『メディア分光器』(東海教育研究所、2017)など著書多数

【Outline and objectives】

How to search for the materials you need to do sociological research? How to raise sociological questions from the encounter with materials? Practical lessons using archives and materials facilities.

SOC500E1 - 1302

統計分析法

齋藤 友里子

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法2」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分析結果（解釈ではない）は統計ソフトの扱い方を憶えれば「一応だせる」ただし、分析手法や統計学に関する知識が欠如していれば、堂々と嘘をつくことになりかねない。また、データに基づき主張するには、実質的なテーマをどのように統計解析に落とし込むかが肝要となる。この授業では、モデルの基礎を数学的に学びつつ、実際にデータを用いて分析する。これにより、社会的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。「発見すること」「理論を確かめること」と分析の関連——計量研究における分析視角がもつ重要性についても理解を深めたい。

【到達目標】

数理統計学の基礎をふまえながら、主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と SPSS を用いた実習とフィードバックにより、理解を深める。

本授業は、オンラインで実施する第 1 回授業を除き、対面形式で実施する（第 1 回授業のアクセス方法等詳細は学習支援システムの「授業情報」で通知する）。ただし、以下に注意してほしい。

- 1) 新型コロナウイルス感染防止のため、大学の指示で対面での授業実施が困難となった場合、SPSS を用いた実習は、法政大学多摩情報センターが提供するアプリケーション（「SPSS：リモートデスクトップ」）を用いて実施する。
- 2) SPSS はレポートの作成に必要となる。受講希望者は、対面授業が不可能となる場合に備えて初回授業時までに各自の責任で、自分のパソコンに「SPSS：リモートデスクトップ」をインストールし利用できるようにしておくこと。「SPSS：リモートデスクトップ」は学生専用のアプリケーションであるため、授業担当者はサポートできない。インストール方法の詳細は多摩情報センターウェブサイト「利用ガイド」を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション-社会学と多変量解析	社会学と多変量解析
第 2 回	散らばりの指標と推測統計の基礎知識	散らばりの指標に関する学習を通して統計学の表記法に慣れるとともに推測統計の考え方について概説する
第 3 回	線形代数の基礎知識	線形代数の基礎について概説する
第 4 回	多変量データとベクトル・行列	多変量データと線形代数の関係について論じる
第 5 回	説明変数・目的変数と二変量重回帰モデル	二変量重回帰モデルの考え方について解説する
第 6 回	重回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線型代数を用い解説する
第 7 回	重回帰分析の導入	重回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第 8 回	最小二乗推定と多重共線性	回帰モデルの推定方法の 1 つである OLS と、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第 9 回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第 10 回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第 11 回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第 12 回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第 13 回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第 14 回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回～第 4 回 線型代数と統計学に基礎的な表記の予習・復習

第 5 回～第 14 回 教材の復習と出された実習課題の遂行。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。教材を配布するほか、授業中に適宜指示する。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990；ウォナコット & ウォナコット『統計学序説』培風館、1981；他授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用して執筆されたレポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 数理社会学・理論社会学・社会意識論

<研究テーマ> 共同性とフェアネスの関係、ジャスティスの社会学、公平評価の数理モデル。

<主要研究業績>

2011『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』（齋藤友里子・三隅一人編）東京大学出版会。

2011『「新自由主義の受容」は何により促されたか—市場化と価値意識』齋藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』東京大学出版会。

2011『「不公平感の構造—格差拡大と階層性」』齋藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』東京大学出版会（大槻茂実との共著）。

【Outline and objectives】

You can get some "output" of a statistical application software once you learn how to use it. However, if you have no knowledge of statistical theory or method per se, there is quite a possibility that you end up lying about what you have found through the analysis. If you do not want this, you need to know how to fit your research question into the framework of statistical analysis. This course will offer an opportunity to learn how to pursue your research question, quantitatively.

SOC500E1 - 1304

調査研究法**中筋 直哉**

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法1」、公共政策学「社会調査法6」、サステナビリティ学「社会調査法6」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学および政策科学の研究の実現場面で社会調査を活用するには、研究の目的および研究に適用する社会理論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを分析することが欠かせない。この科目では、社会学の調査研究の古典を複数講読することを通して、それら各々のユニークな問題関心とそこから導き出された独特の調査設計・データ分析法を学び、さらに履修者各自の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析法を構想し、相互討論を通して洗練することを試みる。

【到達目標】

受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づく修士論文の執筆計画を立案できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教室で対面で実施（予定、なお対面困難な場合学習支援システムを通して参加方法を確認すること）。講義と履修者による発表および討論。毎回2時間の連続講義で、授業での発表についてはその都度授業内で、試験答案については事後に全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期前半**

回	テーマ	内容
1	総論 1	社会学・政策科学と社会調査
2	総論 2	社会調査の諸類型
3	総論 3	社会調査の倫理と真正性
4	フィールドワークの光と影 1	B. マリノフスキ『西太平洋の遠洋航海者』をめぐって 1
5	フィールドワークの光と影 2	同上 2
6	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる 1	A. クラインマン『八つの人生の物語』をめぐって 1
7	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる 2	同上 2
8	テキストデータの分解・再構築 1	小林直毅編『「水俣」の言説と表象』をめぐって 1
9	テキストデータの分解・再構築 2	同上 2
10	社会関係を計量する 1	C. フィッシャー『友人のあいだで暮らす』をめぐって 1
11	社会関係を計量する 2	同上 2
12	政策科学に貢献する社会調査 1	辻中豊ほか『現代日本の自治会・町内会』をめぐって 1
13	政策科学に貢献する社会調査 2	同上 2
14	総括的討論	各自の問題関心に基づく調査デザインの発表と相互討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自テキスト以外の関連文献を収集し、比較検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上記授業計画の「内容」に記載

【参考書】

各回ごとに授業中に指示

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 30%、報告の内容評価 30%、筆記試験 40%。よく考えられた報告を行うことと、筆記試験において修士論文に相応しい調査計画を立案できていることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】

最新の研究を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析

〈主要研究業績〉『よくわかる都市社会学』（2013, ミネルヴァ書房）、『群衆の居場所』（2005, 新曜社）

【Outline and objectives】

This lecture aims to study various relations sociological theory and method by reading and discussing classics of sociology.

SOC500E1 - 1305

質的資料分析法

田嶋 淳子

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法3」、公共政策学「社会調査法8」、サステナビリティ学「社会調査法8」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査法の基本的理解と、その実践的力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得るよう試みる。

【到達目標】

さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送、音楽などの質的データの分析法（内容分析等）を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は6月5日より講義を開始します。詳細は学習支援システムのお知らせを参照してください。基本的にオンラインでの授業を予定しています。質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説します。その上で、受講生のデータあるいは各自の関心がある領域の質的資料を任を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期後半**

回	テーマ	内容
第1回	質的調査とは何か	量的調査との違い／調査倫理の問題
第2回	質的調査法の歴史と到達点1	インタビュー／参与観察／ドキュメント分析／観察
第3回	質的調査法の歴史と到達点2	エスノグラフィー／ライフヒストリー／GTA／会話分析
第4回	実践的課題1（資料を集める）	質問とは何か／ラポールをめぐる論争／調査者の立ち位置
第5回	実践的課題2（資料を分析する）	記録をつくる／テーマをたてる／データの特性を整理する
第6回	実践的課題3（資料を記述する）	書くとはどういうことか／調査倫理ふたたび
第7回	ワークショップ1	データ・質的資料の持ち寄り
第8回	ワークショップ2	最初の感想とそこから見えるもの
第9回	ワークショップ3	どう記録をつくるのか
第10回	ワークショップ4	テーマをたてる
第11回	ワークショップ5	データの特性を理解する
第12回	ワークショップ6	改めてテーマをたてる
第13回	ワークショップ7	ふたたびデータの特性を考える
第14回	総合討論	質的調査法の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を授業支援システムにアップします。

【参考書】

1. 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 2016『質的社会調査の方法』有斐閣
2. 佐藤郁哉,2008『質的データ分析法—理論・方法・実践』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加（40%）、演習課題への取り組み（60%）

【学生の意見等からの気づき】

非該当

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学

<研究テーマ>中国系移住者コミュニティの比較社会学的研究、移住第2世代問題

<主要研究業績> 2010『国際移住の社会学—東アジアのグローバル化を考える』明石書店、2019『イタリアにおける中国系ニューカマーズの定着とコミュニティ形成過程』『華僑華人研究』第16号、20-39ページ。2021『イタリアにおける中国系移住者家族の変遷』『移民政策研究』第13号掲載予定。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative survey.

SOC600E1 - 2100

メディア社会学基礎演習 1

土橋 臣吾

備考（履修条件等）：「メディア社会学基礎演習 3」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアコースでの研究プロセスの理解とメディア研究法の基礎の習得

【到達目標】

メディアコースに入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア研究を進めるにあたっての基礎的な文献を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的に実施し、その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	春学期の大学院プログラム	メディアコースの春学期進行への理解を深める
第2回	社会科学の認識論	社会科学の認識論を理解する（テキスト第1章）
第3回	M 2以上の院生の研究テーマを学ぶ（第1回）	先輩院生の研究テーマを参考にする
第4回	M 2以上の院生の研究テーマを学ぶ（第2回）	先輩院生の研究テーマを参考にする
第5回	調査法の基礎①事例研究／研究テーマ設定のための基礎調査	事例研究の方法論を学ぶ（テキスト第2章）／研究テーマ設定の方法を学ぶ
第6回	M 2院生の研究テーマ報告（総合演習）	先輩院生の報告を聴講する
第7回	M 1院生の基礎調査報告（第1回）	テーマ設定のための基礎調査を報告する
第8回	M 1院生の基礎調査報告（第2回）	テーマ設定のための基礎調査を報告する
第9回	調査法の基礎②インタビュー	インタビューの方法論を学ぶ（テキスト第5章）
第10回	調査法の基礎③エスノグラフィー／参与観察	エスノグラフィー／参与観察の方法論を学ぶ（テキスト第6章）
第11回	M 1院生の研究テーマ報告（総合演習）	研究計画書の報告を行う
第12回	調査法の基礎④調査票調査	調査票調査の方法論を学ぶ（テキスト第7章）
第13回	調査法の基礎⑤言説分析	言説分析の方法論を学ぶ（テキスト第8章）
第14回	研究テーマ／研究法の再設定	夏季休暇・秋学期に向けて研究課題を再設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回終わりに次週までに読んでくるべきテキストの章を指定するので、必ず熟読すること。

【テキスト（教科書）】

野村康（2017）『社会科学の考え方 認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①計3回の演習内での報告＝「研究テーマ設定のための基礎調査」「研究テーマ報告（総合演習）」「夏季休暇・秋学期に向けての研究課題」（70%）②調査法の基礎（30%）の達成度によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of media research.

SOC600E1 - 2101

メディア社会学基礎演習 2

小林 直毅

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアコースに入学した大学院生として求められる、メディア研究の基礎となる理論と方法を学ぶ。けっしてメディアの世界だけに内向きに狭く閉じこもった問題構成を図ることなく、社会的現象や社会的課題を学術的考察していくために、人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディアの可能性と課題を広範、かつ系統的に解明することのできる研究資質の形成を図る。

【到達目標】

メディア研究が、どのように問題構成を図り、研究目標を設定し、どのような研究成果を、どのようにして学術論文としてまとめていくべきかを理解し、実践していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア研究の基礎として不可欠な理論と方法、その実践的可能性を論じたテキストを、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、毎回、報告とディスカッションを重ねていく。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

*本授業は原則として対面形式で実施するが、受講者の希望があればオンラインでの参加も可とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第2回	研究テーマと問題構成	夏季休暇中の研究成果に即した、分担報告の決定。
第3回	メディア研究とは何か（1）	テキスト 19～78 頁の分担報告。
第4回	メディア研究とは何か（2）	テキスト 19～78 頁の分担報告。
第5回	理論と方法（1）	テキスト 79～130 頁「テキストの要求と分析の戦略」の分担報告。
第6回	理論と方法（2）	テキスト 79～130 頁「テキストの要求と分析の戦略」の分担報告。
第7回	問題構成の視点（1）	テキスト 131～189 頁「経験の諸次元」の分担報告。
第8回	問題構成の視点（2）	テキスト 131～189 頁「経験の諸次元」の分担報告。
第9回	中間総括	これまでの報告と議論を振り返って、全員でディスカッション。
第10回	実践的課題（1）	テキスト 191～246 頁「行為と経験のロケーション」の分担報告。
第11回	実践的課題（2）	テキスト 191～246 頁「行為と経験のロケーション」の分担報告。
第12回	メディア研究の課題（1）	テキスト 247～327 頁「意味の構成」の分担報告。
第13回	メディア研究の課題（2）	テキスト 247～327 頁「意味の構成」の分担報告。
第14回	総括討論	メディア研究としての各自の論文構想について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ロジャー・シルバーストーン（吉見俊哉、伊藤守、土橋臣吾訳）『なぜメディア研究か——経験・テキスト・他者——』せりか書房。

【参考書】

伊藤守編著（2009）『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房。他の参考文献等は、授業を進める過程で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

分担報告、ディスカッション（70%）、「中間総括」、「総括討論」における論文執筆へ向けての発表（30%）の達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003年）

『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004年）

『水俣学講義【第2集】』（共著、日本評論社、2005年）

『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006年）

『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007年）

『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007年）

『ポピュラーTV』（共著、風塵社、2009年）

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育

への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012年）

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカ

ニシヤ出版、2013年）

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界

思想社、2014年）

『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018年）

【Outline and objectives】

Graduate students will be able to study theories and methods as thought of media studies.

SOC600E1 - 2102

メディア社会学基礎演習3

土橋 臣吾

備考（履修条件等）：「メディア社会学基礎演習1」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアコースでの研究プロセスの理解とメディア研究法の基礎の習得

【到達目標】

メディアコースに入学した院生として、どのように研究目標、研究法を設定すべきかを理解し実践することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア研究を進めるにあたっての基礎的な文献を輪読するとともに、参加者の研究発表を定期的に行い、その進捗状況を確認する。なお、この授業はオンライン授業の形式で行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	春学期の大学院プログラム	メディアコースの春学期進行への理解を深める
第2回	社会科学の認識論	社会科学の認識論を理解する（テキスト第1章）
第3回	M 2以上の院生の研究テーマを学ぶ（第1回）	先輩院生の研究テーマを参考にする
第4回	M 2以上の院生の研究テーマを学ぶ（第2回）	先輩院生の研究テーマを参考にする
第5回	調査法の基礎①事例研究／研究テーマ設定のための基礎調査	事例研究の方法論を学ぶ（テキスト第2章）／研究テーマ設定の方法を学ぶ
第6回	M 2院生の研究テーマ報告（総合演習）	先輩院生の報告を聴講する
第7回	M 1院生の基礎調査報告（第1回）	テーマ設定のための基礎調査を報告する
第8回	M 1院生の基礎調査報告（第2回）	テーマ設定のための基礎調査を報告する
第9回	調査法の基礎②インタビュー	インタビューの方法論を学ぶ（テキスト第5章）
第10回	調査法の基礎③エスノグラフィー／参与観察	エスノグラフィー／参与観察の方法論を学ぶ（テキスト第6章）
第11回	M 1院生の研究テーマ報告（総合演習）	研究計画書の報告を行う
第12回	調査法の基礎④調査票調査	調査票調査の方法論を学ぶ（テキスト第7章）
第13回	調査法の基礎⑤言説分析	言説分析の方法論を学ぶ（テキスト第8章）
第14回	研究テーマ／研究法の再設定	夏季休暇・秋学期に向けて研究課題を再設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回終わりに次週までに読んでくるべきテキストの章を指定するので、必ず熟読すること。

【テキスト（教科書）】

野村康（2017）『社会科学の考え方 認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会

【参考書】

講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①計3回の演習内での報告＝「研究テーマ設定のための基礎調査」「研究テーマ報告（総合演習）」「夏季休暇・秋学期に向けての研究課題」（70％）②調査法の基礎（30％）の達成度によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of media research.

SOC500E1 - 2200

メディア理論1 (メディアの歴史と思想)

小林 直毅

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近現代史上の重要な出来事の実験とその記録と記憶をめぐる身体・技術的、制度的な変容を、さまざまなメディアの歴史と思想として考察する。

【到達目標】

当面する諸現象、諸課題を、仮構的な「メディアの世界」だけに内向きに狭く閉じ込めて自己完結する「メディア研究」からの脱却を目指して、「人間の認識と存在を可能にする技術と制度としてのメディア」の歴史と思想を問い直すメディア研究の可能性と課題を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テッサ・モーリス＝スズキ『過去は死なない——メディア・記憶・歴史』をテキストとして、各自の研究テーマに即して分担報告者を決めて、報告とディスカッションを重ねていく。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

*本授業は原則として対面形式で実施するが、受講者の希望があればオンラインでの参加も可とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と、秋学期のスケジュール確認。
第2回	この授業の問題構成	参加者の研究テーマに即した分担報告の決定。
第3回	過去は死なない (1)	テキストの第1章前半の分担報告。
第4回	過去は死なない (2)	テキストの第1章後半の分担報告。
第5回	想像しがたい過去 (1)	テキストの第2章前半の「歴史小説」をめぐる考察を分担報告。
第6回	想像しがたい過去 (2)	テキストの第2章後半の「歴史小説」をめぐる考察を分担報告。
第7回	レンズに映る影 (1)	テキストの第3章前半の「写真と記憶」をめぐる考察を分担報告。
第8回	レンズに映る影 (2)	テキストの第3章後半の「写真と記憶」をめぐる考察を分担報告。
第9回	活動写真 (1)	テキストの第4章前半の「歴史の映画化」をめぐる考察を分担報告。
第10回	活動写真 (2)	テキストの第4章後半の「歴史の映画化」をめぐる考察を分担報告。
第11回	視角 (1)	テキストの第5章前半の「漫画の歴史表象」をめぐる考察の分担報告。
第12回	視角 (2)	テキストの第5章後半の「漫画の歴史表象」をめぐる考察の分担報告。
第13回	ランダム・アクセス・メモリー	テキストの第6章の「多メディア時代の歴史」をめぐる考察の分担報告。
第14回	"歴史への真摯さ"の政治経済学に向かって	テキスト第7章の分担報告と総括討論。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テッサ・モーリス＝スズキ (田代泰子訳) 『過去は死なない——メディア・記憶・歴史——』岩波現代文庫。

【参考書】

「参考文献リスト」を配布する。

【成績評価の方法と基準】

分担報告と討論における達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』(世界思想社、2003年)

『テレビはどう見られてきたのか』(共編著、せりか書房、2003年)

『水俣学研究序説』(共著、藤原書店、2004年)

『水俣学講義【第2集】』(共著、日本評論社、2005年)

『テレビニュースの社会学』(共著、世界思想社、2006年)

『「水俣」の言説と表象』(編著、藤原書店、2007年)

『テレビジョン解体』(共著、慶應義塾大学出版会、2007年)

『ポピュラーTV』(共著、風塵社、2009年)

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』(共著、日外アソシエーツ、2012年)

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』(共著、ナカニシヤ出版、2013年)

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』(共著、世界思想社、2014年)

『原発震災のテレビアーカイブ』(編著、法政大学出版局、2018年)

【Outline and objectives】

Graduate students will be able to study the history and thought of media as technology and institution.

SOC500E1 - 2202

メディア理論3 (ジャーナリズム研究)

別府 三奈子

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ジャーナリズムを規定しているプロフェッション論と言論の自由の概念について、国際調査報道の事例から観察する。

【到達目標】

民主社会におけるジャーナリズムの存在意義を、昨今の具体的な調査報道の事例とメディア理論の観点から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

リアルタイム配信型のオンライン授業を予定している。事前に資料映像を視聴したうえで、概説やテーマディスカッションを ZOOM にて行う。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	米国ジャーナリズムの100年史
第2回	社会的機能不全と調査報道	プロフェッション論の視座
第3回	言論の自由と民主主義の関係	フロイドケース(黒人差別撤廃運動の発火点)
第4回	米国の調査報道記者編集者会(IRE)	その理念と実践者の語り(フェイクとリアルは見分けられる)
第5回	調査報道記者の連携	アリゾナケース(怒りを共有するということ)
第6回	国際調査報道ジャーナリスト連合(ICIJ)	パナマ文書(国際調査報道記者のネットワーク)
第7回	中間レポート	マックレーキングの思想と調査報道の意義(テキスト2章)
第8回	言論の自由をめぐる攻防	香港(before/after)
第9回	内部告発と国益	スノーデンケース(国益か人権か)
第10回	内部告発者保護制度とスパイ防止法	マニングケース(国益か公益か)
第11回	公論を構す	WWYD ケース(社会問題のドッキリ版からの照射)
第12回	調査報道の新たな表現	ユーチューブ局 the I File ケース(メキシコ国境難民調査報道)
第13回	ノイマンの理論の検討	「沈黙の螺旋」理論と調査報道の意義
第14回	市民社会と調査報道	言論の自由とその障壁(テキスト3章)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

教材の予習・復習、授業で扱う事例の事前視聴とリプライに毎週、2時間くらいを要する。

【テキスト(教科書)】

『調査報道ジャーナリズムの挑戦—市民社会と国際支援戦略』花田達郎、別府三奈子、大塚一美、デビッド・カプラン著、旬報社、2017年

【参考書】

『レクチャー 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育研究所編、早稲田大学出版部

【成績評価の方法と基準】

授業内での討議内容 50%、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

政治制度とジャーナリズムの関係について自覚を促す。

【学生が準備すべき機器他】

指定テキストの購入、ZOOM 授業の準備

【その他の重要事項】

日々のニュース観察

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>米国ジャーナリズム思想史

<主要単著>『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006年。『アジアでどんな戦争があったのか 戦跡を辿る旅』めこん、2006年。

【Outline and objectives】

We observe the concepts of profession theory and freedom of speech, which govern journalism, through the cases of in east and west.

SOC500E1 - 2203

メディア理論4

北原 利行

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

旧来のマスメディア(新聞、放送、出版、映画など)とインターネットにおけるさまざまなメディア、サービスが混在、融合化した結果、従来のアプローチでコミュニケーション上のさまざまな事象を捉えることが困難になっている。一つには発信者、受信者が相対化し明確な区分を持ち得ないからでもある。メディア、コミュニケーションの社会的機能を捉え直し、それを支えるビジネス構造的な視点も含めて、メディアやコミュニケーションのあり方について考察し、現代社会におけるそれらの上で起きているさまざまなコミュニケーション上の諸問題への分析手法、解決の方策について論じる。特にマスメディアとソーシャルメディアの関係について双方の立場から論じることができるクリティカルな視点の獲得を目指す。

【到達目標】

メディア、コミュニケーションについての基礎的な理論の習得、多種・多様なメディアについての俯瞰や理解、インターネット上のコミュニケーション、ソーシャルメディアなどについての理解、消費者・生活者の情報摂取行動についての基礎的な知識の習得を最初に講義形式で行う。その上でマスメディア、インターネット上でのコミュニケーションなどの現状におけるさまざまな諸問題についての分析力および課題解決のための論理的構築できるスキルを習得する。必要に応じて具体的な調査手法や調査実践などについてもとりあげる。また、プレゼンテーションスキルの向上も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習形式で行う。講義については、レジュメを配布し、内容に沿って説明し、受講者に対して問題提起し、リアクションについての議論を行うことで、インタラクティブな形式で進行させる。受講者の問題意識をもとに、課題解決のための演習形式を取り入れて、受講者との間でのディスカッションを行い、課題解決のための思考を深めスキルの向上を図る。授業内容については、受講者の関心領域などに対して柔軟に対応するので、下記の授業計画からの変更の可能性もある。アクティブラーニングに関しては、途中に設ける予定。授業形式については対面講義を基本とするブレンド授業形式またはハイフレックス授業形式を想定しているが、受講者の要望、社会環境の変化などに柔軟に対応する。第一回目の講義に関しては学生の対面参加での可否を確認するためにオンラインで実施する。その結果をもとに二回目以降の講義の仕方について対応を検討する。課題等に関しては適宜必要に応じて実施するが、フィードバックに関しては講義内もしくは学習システムを通して行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講者の問題関心の確認 メディア、コミュニケーションについての基礎理論
第2回	メディア論	メディア論の基礎、マスメディア論
第3回	コミュニケーション論①	コミュニケーション論の基礎、多種知よなコミュニケーションの形態について
第4回	コミュニケーション論②	インターネットを中心としたコミュニケーションの解析
第5回	新聞	新聞産業の構造、新聞の受容、ジャーナリズムなどの諸問題について
第6回	テレビ・ラジオ	テレビ・ラジオ産業の構造、テレビの受容、視聴率などの諸問題について
第7回	出版	出版産業の構造、書籍・雑誌の受容、電子出版などの諸問題について
第8回	映画・アニメ、その他	映画産業、アニメ産業の構造、その受容、その他メディアなどの諸問題について
第9回	インターネット	インターネットの構造、消費者の情報摂取行動、コミュニケーションの諸相
第10回	インターネットサービス、コンテンツ	インターネット上のメディア、サービスを他のメディアとの対比で分析する。インターネット上での諸問題の検討。

第 11 回	ソーシャルメディア	ソーシャルメディアの現状、多くのメディア、コミュニケーションとの関係性
第 12 回	演習①	受講者の問題意識にそって演習形式で課題の検討を行う。
第 13 回	演習②	受講者の問題意識にそって演習形式で課題の検討を行う。
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に、新聞やテレビなどの多くのメディアに幅広く意識的に接触すること。インターネット上のサービス等についても積極的に把握する。講義内容に沿って生じた疑問などを参考書などを中心に予習・復習する。日常より問題意識を持って、メディア、コミュニケーション上の諸問題について批判的に捉えることで受講者自身が設定した演習課題についての考察を深める。

授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書は使用しない。講義の都度レジュメ等を配布する。

【参考書】

吉見俊哉『メディア文化論－メディアを学ぶ人のための 15 話』（有斐閣）、佐藤卓己『メディア社会－現代を読み解く視点』（岩波書店）、M. マクルーハン『メディア論』（みすず書房）、L. レッティング『REMIX』（翔泳社）、電通メディアイノベーションラボ『情報メディア白書』（ダイヤモンド社）など。講義内でも関連参考書について紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（講義、課題への参加度）	60%
期末レポート	40%

【学生の意見等からの気づき】

アニメーション市場関連についての要望が多い。また既存のメディアとソーシャルメディアの関係についての関心が高い。また、マスメディアについての現状の整理についても一定のニーズが存在している。

【その他の重要事項】

電通総研、電通コミュニケーションラボにおいて、マスメディア、コミュニケーションについてのリサーチ、コンサルティングなどに従事。それらの経験に基づいて、多角的・俯瞰的に講義を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア、コミュニケーション、広告

<研究テーマ>

マスメディア企業の戦略、企業の広告戦略、広告市場の変遷

<主要研究業績>

「2019年の新聞広告とその動向——新聞特有のブランドリフト効果を生かす」、2020年4月、新聞研究

「2018 広告コミュニケーションの総合講座理論とケーススタディー」（共著）、

2017年12月、日経広告研究所

「情報メディア白書」（共著）、2007年～、ダイヤモンド社

【Outline and objectives】

As a result of the mixing and merging of traditional mass media (newspapers, broadcasting, publishing, movies, etc.) and various media and services on the Internet, it has become difficult to capture various events in communication using traditional approaches. One reason for this is that the sender and receiver are relative and cannot be clearly divided. In this lecture, we will reconsider the social functions of media and communication, and discuss the state of media and communication from the perspective of the business structures that support them. We will also discuss analytical methods and solutions to various communication problems that are occurring in modern society. In particular, we will discuss the relationship between mass media and social media. In particular, we aim to acquire a critical perspective that enables us to discuss the relationship between mass media and social media from both perspectives.

メディア特殊研究 1（ブランド広告の意味研究）

青木 貞茂

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会においてブランドは、私達が生きていく上で無視できないほど大きな意味・価値を持った存在である。このブランドを創造するのが広告情報であり、どのように私達に働きかけ、影響を与えるのか、意味・価値の生成構造について構造主義、記号論、語用論をふまえ明らかにする。

【到達目標】

現代のブランド広告などに関して構造主義・記号論などの方法を駆使して、その構造・意味を分析・把握することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主にブランド広告あるいは関連情報を中心として、記号論、言語学における語用論等の方法を駆使し、様々な情報を分析素材として構造・意味解析を実行する。その隠された意味、表現構造を明るみに出し、ともに情報の意味についての考察を深めていく。本授業は、Zoom を使用してオンラインで実施する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全必要な予備知識などについて説明
第 2 回	現代社会におけるブランド、広告、文化	ブランド、広告、文化は、現代社会の中でどのような機能と役割を果たしているのか
第 3 回	ブランドの存在論	現代社会におけるブランドの存在意義
第 4 回	ブランド価値の発見	ブランドの価値、意味内容のための調査方法
第 5 回	ブランド価値の構造化	ブランドの価値、意味内容を定義する
第 6 回	ブランド価値の管理	ブランドの価値をぶれずに管理する手法
第 7 回	ブランド・シンボルの概念	ブランドの表現を構成するシンボルの内容
第 8 回	ブランドにおけるシンボル・チェーン	ブランドのシンボル間のチェーン構造とはどのようなものか
第 9 回	成功したブランド広告のケース分析	世界的に成功したブランド広告の事例を分析
第 10 回	ブランド広告の構造分析	ブランド広告を構造主義、記号論の方法で分析
第 11 回	言語ゲームとブランド・コミュニケーション	言語ゲーム論からみたコミュニケーション戦略
第 12 回	ブランド広告と物語	ブランド広告を効果的に拡散する物語
第 13 回	ブランドマネジメントの方法	ブランド表現、シンボルのマネジメント方法
第 14 回	ブランド広告と情報戦略	ブランドに関する情報発信戦略の概要と授業全体でのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活においてブランドとその広告表現について積極的な関心を持ち、情報収集を行なう。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本講義では、準備時間 2 時間、復習時間 2 時間、1 回につき計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版新書、2014 年）

【参考書】

津金澤聡廣・佐藤卓己編『広報・広告・プロパガンダ』（ミネルヴァ書房、2003 年）

佐藤卓己・渡辺靖・柴内康文編『ソフト・パワーのメディア文化政策』（新曜社、2012 年）

他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、課題レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 広告論、ブランド論

<研究テーマ> 文化と広告、ブランド、マーケティング

<研究業績> 単著『文脈創造のマーケティング』（日本経済新聞社、1994 年）、『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

共著『記号化社会の消費』（ホルト・サウンダース・ジャパン、1985 年）、『広告の記号論』（日経広告研究所、1987 年）、『文化の消費が始まった』（日本経済新聞社、1989 年）、『広報・広告・プロパガンダ』（ミネルヴァ書房、2003 年）、『ソフト・パワーのメディア文化政策』（新曜社、2012 年）

共訳書としてレイモア『隠された神話』（日経広告研究所、1985 年）

【Outline and objectives】

In contemporary society, brand is an existence with great significance and value that cannot be ignored in our everyday life. We will clarify how the brands, created by advertisement information, influence us and how their significance and values are produced in light of structuralism, semiotics, and pragmatics.

SOC500E1 - 2206

メディア特殊研究 2（データリテラシー）

萩原 雅之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公的統計、アンケート調査、世論調査などのデータを扱った報道の中には、無意識に、あるいは意図的に間違った解釈や誤解を生む表現が見られる。その背景にあるメディアのメカニズムやジャーナリズムの現状を理解し、データを正しく読み解くための視点と技術について学ぶ。さらに新型コロナウイルスや米大統領選挙に関するデータ報道事例を通して「データジャーナリズム」の意義と可能性についても議論する。

【到達目標】

- ・データの収集、分析に関する基本知識を習得する。
- ・報道における誤ったデータ解釈や表現を指摘できる。
- ・エビデンスデータに基づく考察と議論の重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・第 1 回の授業は対面とオンラインを併用して実施する。第 2 回以降は、受講者の希望をとり相談したうえで柔軟に対応する。
- ・基本知識や事例分析については講義を基本とするが、受講者とのディスカッションも重視する。授業内容の実践・応用を目的としてデータや統計に基づいて記事やコラムを実際に執筆する演習も組み入れる。
- ・演習および課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ジャーナリズムとデータリテラシー
第 2 回	事例分析：世論調査	世論調査を扱った報道の批判的検証
第 3 回	事例分析：公的統計・社会調査	公的統計・社会調査を扱った報道の批判的検証
第 4 回	事例分析：パブリシティ調査	パブリシティ調査を扱った報道の批判的検証
第 5 回	事例分析：新型コロナ関連統計	新型コロナのデータ報道を議論する
第 6 回	事例分析：米大統領選関連調査	米大統領選のデータ報道を議論する
第 7 回	ハンス・ロスリングの方法論	『ファクトフルネス』を読む
第 8 回	データ収集の実務	サンプリング、質問文作成、ネットリサーチ
第 9 回	データ分析の実務	平均と分布、相関と因果、多変量解析、予測
第 10 回	データサイエンスの活用	ビッグデータ、ソーシャルリスニング、AI 技術
第 11 回	データビジュアライゼーション	グラフ表現技術、ストーリーテリング
第 12 回	演習 1	データを使った記事・コラムの執筆と議論
第 13 回	演習 2	データを使った記事・コラムの執筆と議論
第 14 回	データジャーナリズムの可能性	まとめとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・演習で発表する場合は事前にリサーチや資料作成の時間を確保する。
- ・授業の趣旨に沿って気になる記事やコラムなど収集する習慣をつける。
- ・授業の準備学習・復習時間は各回 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ハンス・ロスリング他『ファクトフルネス』日経 BP 社、2019 年、1944 円
その他、各回ともレジュメや資料を事前に配布する。

【参考書】

松本健太郎『データサイエンス「超」入門』毎日新聞出版、2018 年、1540 円
小林直樹『だから数字にダマされる』日経 BP 社、2016 年、1620 円
谷岡一郎『社会調査のウソ』文春新書、2000 年、745 円

【成績評価の方法と基準】

平常点および議論への参加度 50%
演習での成果物 50%

【学生の意見等からの気づき】

留学生の理解がより深まるよう日本のみならずアジア事例も取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

対面演習の場合は PC を持参。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

世論調査、社会調査、マーケティングリサーチ、データサイエンス

＜現職＞

トランスコスモス・アナリティクス株式会社取締役フェロー、マクロミル総合研究所長

青山ビジネススクール、早稲田大学ビジネススクール講師（マーケティングリサーチ）

総務省統計局国勢調査企画会議専門委員

＜著書＞

著書『次世代マーケティングリサーチ』（2011）

共著『ブランド戦略全書』田中洋編（2014）

【Outline and objectives】

Some news articles dealing with data such as public statistics, surveys, opinion polls have unconsciously or intentionally generated expressions that produce an erroneous interpretation and misunderstanding. The course objectives are: 1) understanding the mechanisms of the media behind it and the current state of journalism, 2) learning skills and literacy to correctly read and understand the data, and 3) thinking about the significance and potential of "data journalism" through examples of news reports on Covid-19 and US presidential election.

SOC500E1 - 2207

メディア特殊研究3（知的財産権法）

白田 秀彰

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知的財産権法全般について紹介・検討したのちに、メディア研究に最も関係の深い著作権法について理論と裁判例をみながら検討する。

【到達目標】

著作権法の基本的思考方法を把握すること。提示された問題について原則を適用して見解を提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論によって行う。発表を要求する場合もある。新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	法律学概論	法律教育を受けていない学生のために、法律学の基本的な考え方を提示する。
第2回	民法概論	知的財産権法に関係する民法の領域について解説する。
第3回	知的財産権法概論	知的財産権法全般について解説する。またそれぞれの権利についてその歴史的・経済的背景について解説する。
第4回	著作権法 著作物とは	著作物の概念について解説する。
第5回	著作権法 著作者とは	著作者の概念について解説する。
第6回	著作権法 著作権の行使	著作権の効力および存続期間について解説する。
第7回	著作権法 著作権の制限	著作権の制限規定について解説する。
第8回	著作権法 著作隣接権	著作隣接権について解説する。
第9回	事例検討 1	著作物概念に関する事例を取り上げ具体的に検討する。
第10回	事例検討 2	著作者概念に関する事例を取り上げ具体的に検討する。
第11回	事例検討 3	著作権の効力・存続期間・制限に関する事例を取り上げ具体的に検討する。
第12回	事例検討 4	著作物の流通に関する事例を取り上げ、隣接権その他の流通事業について検討する。
第13回	事例検討 5	情報時代の著作権が抱える諸問題に関する事例を取り上げ具体的に検討する。
第14回	講評会	講義を総括する小論文を提出させ、この小論文の内容について討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

膨大な内容を短期間で検討するため、受講生は講義中に示された事項について自主的に調査・理解することが必要である。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示する。

【参考書】

後半の事例研究では、最新版の「著作権判例百選」を用いる。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80%) と講義中に課す小論文の内容 (20%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は少人数であるためアンケートの対象ではない。

【Outline and objectives】

After introducing and considering general intellectual property rights, we will consider copyright, which is closely connected to media studies, by seeing theories and judicial precedents.

SOC500E1 - 2210

メディア社会学特殊研究2（アイドル学）

稲増 龍夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アイドル学の前提となる基礎文献の購読を通して、アイドル学の射程について検討し、現代アイドル学の基本構図を学びます。

【到達目標】

アイドルの成立に深く関連する「スター」に関する大著『増殖するベルソナ～映画スターダムの成立と日本近代』（藤木秀朗）を読みこみ、社会的視点からのアイドル学の基礎を学び、現代のアイドル現象へのアプローチ手法を考察します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを輪読し、毎回、発表者による問題提起に関して参加者で議論を展開します。なお、基本、対面授業を主としますが、オンラインを併用する可能性もあります。その辺りは、後期における社会状況と受講者の希望を尊重します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	スケジュールの確認と受講者の自己紹介
第2回	『増殖するベルソナ』序章	映画スターダムの基本構図
第3回	『増殖するベルソナ』1章	スターとしての弁士
第4回	『増殖するベルソナ』2章	妙技のベルソナ/権威のベルソナ
第5回	『増殖するベルソナ』3章	アメリカ映画スターの増殖
第6回	『増殖するベルソナ』4章	アメリカ映画スターと文化介入
第7回	『増殖するベルソナ』5章	国際映画スターシステムの再編
第8回	『増殖するベルソナ』6章	女形から女優へ
第9回	『増殖するベルソナ』7章	日本女優の確率
第10回	『増殖するベルソナ』8章	モダンガールとクララ・ポー
第11回	『増殖するベルソナ』9章	敬愛されるモダンガール
第12回	現代アイドル論-2	各自が興味を持ったアイドル論考を紹介
第13回	現代アイドル論- 2	各自が興味を持ったアイドル論考を紹介
第14回	まとめと総括	アイドル論の基本視座を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤木秀朗『増殖するベルソナ～映画スターダムの成立と日本近代』（名古屋大学出版会）

【参考書】

授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

レポート発表と毎回の議論を評価の基本とします（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の修論構想について、適宜、個別にサポートしてきましたが、受講者からは好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化論

<研究テーマ>

映像メディアと表象文化

<主要研究業績>

『アイドル工学』

『パンドラのメディア～テレビは時代をどう変えたのか』

『グループサウンズ文化論』

【Outline and objectives】

Learn the Basic Viewpoint of Idol Studies through Reading Major Literature that is the Premise of Idol Studies.

SOC500E1 - 2211

取材文章実習

高瀬 文人

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

取材文章とは「事実に基づいた思考とその表現」と言い表すことができる。事実を集め、評価し、導き出される結論を展開し、適切に表現する方法は、ジャーナリズムや学問に限らず全ての思考の基本であり、その重要性はますます高まっている。この授業ではジャーナリズムの文章（取材文章）を自分の思考法とリンクして身につけ、受講者の「学びのスキル」とする。

【到達目標】

- ・取材文章がどのような構造でできているかを分析し、理解できる。
- ・新聞、雑誌、書籍、ウェブなどの媒体ごとに、文章の特徴を理解できる。
- ・問題意識、事実の見かた、収集と整理、論理の展開と論証の基本的な技術を身につける。
- ・事実の確認と評価の方法を理解できる。
- ・インタビューをはじめとする取材方法を学ぶ。
- ・学んだ方法論をもとに、事実を知らせる文章を書く。
- ・学んだ方法論をもとに、複数の事実から新しい価値を生み出す文章を書く。
- ・他者が書いた文章を読解し、校正し、向上のための方針を立てる。
- ・媒体に合わせた発信方法を考え、文章を書き、仕上げる。
- ・取材者・表現者としての自らとメディア、そして社会との関わり合いについて考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ハイフレックス授業（対面授業を同時に配信）を予定している。新型コロナウイルス感染症の感染状況、また学生のニーズによって、オンラインのみとすることがありうる。

「書く」ことで思考を深める授業の特性上、全体を通じて時間内に、あるいは課題として短い作文、あるいは取材に関連する簡単な作業を課し、それについての討論・添削を予定している。

授業は基本的に討論形式とし、講師と受講者、または受講者同士の討論を活発化することで気づきや深まりを期待する。

また、文法などの短いレクチャーを適宜行い、より文章のスキルを高められるように授業を設計する。

受講生の関心などを考慮し、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ジャーナリズムの文章とその思考法	新聞・雑誌記事を題材に、記事や新聞紙面・雑誌レイアウトの見せ方などの構造を分析し、そこにどのような思考や意図が含まれているかを知る。
第2回	表現方法の構造と変化① 新聞・放送・雑誌・書籍	メディアごとの記事や表現方法の特徴と歴史の中での変化を知る。また、それぞれの文章の違いを知る。
第3回	表現方法の構造と変化② ネット媒体の勃興とレガシーメディアの変容	デジタルメディアの歴史と情報の検索・伝播の構造を知り、旧来のメディアがどう変容しているかを知る。
第4回	問題意識、事実の収集・分析、展開と論証	最近の記事やメディアをめぐる状況の事例から、記事の基本的構造を知る。必要な要素を整理し、自分が記事を書く際のスキルとして意識化できる。
第5回	フェイクニュースとその攻防——事実を確認するには	「フェイクニュース」は、意図的なデマとして流される場合も多いが、きちんと仕事をしていても作ってしまうことがある。防ぐポイントは事実の裏付けにある。その手法を学び、簡単な実践をしてみる。
第6回	取材文章思考①テーマとリサーチ	取材の出発点である「発想」、方向性を決めるための情報収集である「リサーチ」はどのようにしたらよいか、どんな手段があるか。簡単な実践をしながらそれらの「方法」を身につける。
第7回	取材文章思考②取材と情報整理	「取材」とは何をするのか。取材文章思考①での準備を踏まえて取材計画をどのように立て、実行するかを、「取材執筆実習」の回に向けて計画する。また、取材をどのように記録し、情報を整理するかを学ぶ。簡単なワークショップを行う予定。

第 8 回	取材文章思考③伝えるための文章の構造・執筆のルール	取材で得、整理した事実を組み立て、執筆の方向性を決め、執筆にかかる。その論理の組み立てと、文章の基本について、簡単なワークショップを行う中で学ぶ。
第 9 回	取材執筆実習①テーマ設定とリサーチの実際	この回から 13 回まで、受講生はテーマを設定して取材文章を仕上げ、発信する実践を行う。テーマ設定の問題意識と、それを取り上げる必然性を説明できるように考え、発表する。必要なりサーチを行う。
第 10 回	取材執筆実習②取材・インタビューの実際	講師が設定するテーマにより、実際にインタビュー（被取材者）にインタビューし、取材のノウハウを学ぶ。
第 11 回	取材執筆実習③情報整理と執筆の実際	取材で得た情報を整理し、筋書きにまとめ、執筆する作業を行う。授業時間内に終わることができない場合は、課外の時間を使って仕上げることも想定される。
第 12 回	取材執筆実習④発信を踏まえた編集実習	他の受講生が仕上げた原稿を、編集者の立場になって読み、校正し、よりよい内容になるよう添削・アドバイスする。受講生はそのアドバイスに従い、自らの原稿をさらにブラッシュアップする。
第 13 回	取材執筆実習⑤活字媒体の発信、ネット媒体の発信	新聞、雑誌、放送、ネットなど、媒体によって適した文章の書き方がある。自分の記事をそれぞれの媒体で発信することを考えて、バリエーションを作ってみる。
第 14 回	取材スキルとジャーナリズム、そして社会	講義全体を通して得たスキルを振り返り、受講生自身の、これからのもの見方、考え方、表現のしかたにどう影響したかを考える。それを踏まえ、ジャーナリズムの社会における役割、さらに表現者としての自らのあり方について考えを進める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。実習で使用する参考書は適宜案内するが、必ずしも購入する必要はない。

【参考書】

『(新版) 日本語の作文技術』（本多勝一著、朝日文庫）『大人のための国語ゼミ』（野矢茂樹著、山川出版社）『報道記者のための取材基礎ハンドブック』（西村隆次著、リーダーズノート）『校正記号の使い方』『原稿編集ルールブック』（ともに日本エディタースクール）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（50％）。討論で貢献のある学生にはさらに加点する。取材文章の評価（50％）。文章の評価は、文章の完成度とともに、問題設定や情報収集の方法や思考プロセスとその過程、さらに表現に意を払っているかに重点を置く。

【学生の意見等からの気づき】

文法など文章テクニクの短い講義・実習を織り込むことなどで、授業の目的である「問題意識の立て方」「事実の見かた・評価のしかた」「展開・結論づけ」について、受講生は多面的な観点から問題意識を立て、インタビューし、文章表現にまとめるところまで達成できた。今期は、より受講生の実力を高める工夫を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、タブレット、PC など、ネットに接続できる機器があるとよい。

【その他の重要事項】

教員は現役の記事記者、ノンフィクションライター、雑誌・書籍編集者、校正者として幅広い領域で活動しており、いま現在の実例を用いて、多様な観点をふまえて受講者と討論しながら取材文章に必要な思考と技術を学べるよう授業を設計している。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
調査報道の雑誌記者・ノンフィクションライター、広告コピーライター、雑誌編集者・単行本編集者・校正者として執筆・編集業務全般にわたり携わる。
<研究テーマ>
調査報道の現代的あり方、リサーチ教育
<主要研究業績>
『リーガル・リサーチ』2003 年、日本評論社
『ひと目でわかる六法入門 第 2 版』2018 年、三省堂
『鉄道技術者 白井昭』2012 年、平凡社

【Outline and objectives】

Story in Journalism Can be expressed as "It was thought based on the fact and its expression." The way to gather facts, evaluate the derived conclusions and express them properly is fundamental not only for journalism and academic things but also for all ideas, its importance is increasing more and more I will. In this classroom, you will master the sentences of journalism (writing interviews) linked with your own way of thinking.
It aims at "learning skills".

SOC500E1 - 2212

調査報道実習 1

藤代 裕之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、ジャーナリズムに大きな変化をもたらしています。本授業では、口コミの伝播構造やデータの分析手法を学ぶことで、ソーシャルメディア時代の調査報道を実践的に学ぶ。

【到達目標】

ソーシャルメディアの口コミの伝播構造を理解した上で、データを分析し、社会に与える影響について、表層ではなく本質的に捉えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインで行います。授業にはグループワークがあります。リアクションペーパーなどを紹介し、フィードバックを行います。企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要と目的
第 2 回	概論	ソーシャルメディアの特徴
第 3 回	概論	調査報道とソーシャルメディア
第 4 回	概論	炎上とその要因
第 5 回	概論	拡散の構造
第 6 回	分析	ソーシャルリスニング
第 7 回	分析	ソーシャルリスニング
第 8 回	分析	口コミデータの分析
第 9 回	分析	口コミデータの分析
第 10 回	分析	関連情報の収集
第 11 回	分析	関連情報の分析
第 12 回	分析	社会的影響の検討
第 13 回	分析	社会的影響の検討
第 14 回	まとめ	分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回は予習、復習が前提です。グループによる作業時間が相当程度必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート 50%。平常点は、提出するレジュメの内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

データの収集分析にパソコン、ソフトを使用します。

【専門領域、研究テーマ、主要研究業績】

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/30/0002965/profile.html>

【Outline and objectives】

In this course, students will learn methods about social media data analysis.

調査報道実習2

川島 浩誉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ビジネスにおける意思決定・ジャーナリズムにおける問題提起・政策形成における根拠と説明責任などを始めとして、データ及びデータ分析に基づく意思決定とその方法論が社会的・市場的価値を増している。本科目は、データ分析の枠組みと考え方から実装までを習得することを目的とし、そのための道具としてプログラミング言語 Python を実習形式で習得する。なお、あくまで調査や分析を学ぶことが主であるため、プログラミングの経験はゼロから始めても既に多少持っていて学ぶことができる。

【到達目標】

本科目は、実習形式にてプログラミング言語 Python を習得することを土台とし、Python を用いた具体的な構造化・非構造化データの分析を行うことで、データ分析の枠組みと考え方から実装までを習得し、「データと分析に基づいた主張」を理解し、行うことができるようになることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンライン授業の形態で実施する】

各自のノート PC を用いた実習が中心である。

説明 1 → 実習 1 → 解説 1 → 説明 2 → 実習 2 …の繰り返しを軸として講義が進む。

受講者の理解度は小課題と質疑応答によって行う。不明な点を再度説明したり、少し後ろに戻って説明を直すこともあるため、講義の進行は必ずしも予定通りにいかないこともある。進行速度は受講生の理解に応じて調整する。データ分析を学ぶための題材は、こちらで用意するものに加えて、受講者が希望する（修論で予定している）テーマを取り入れることも可能なため、受講者にとって最も学びやすい形で対応することが可能である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期集中

回	テーマ	内容
第 1 回	Python プログラミング (1)	プログラミング環境の確認と Python コーディングのチュートリアル
第 2 回	Python プログラミング (2)	変数の種類とプログラムの流れの制御
第 3 回	Python プログラミング (3)	ファイルの読み書きと簡単な集計、課題の出題
第 4 回	Python プログラミング (4)	課題の共有とここまでの復習としての実習
第 5 回	Python プログラミング (5)	コードの設計と読みやすい書き方
第 6 回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (1)	web ページのクロールとスクレイピングの概要
第 7 回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (2)	web ページのクロールとスクレイピングの実習および課題
第 8 回	仮説形成と分析計画	仮説形成と分析計画
第 9 回	分析プロジェクトの立案	分析プロジェクトの立案
第 10 回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (3)	ソーシャルメディアデータの取得方法の説明
第 11 回	web・ソーシャルメディアからのデータの取得 (4)	ソーシャルメディアデータの取得方法の実習
第 12 回	テキストの計量分析 (1)	テキストデータの計量分析の概要
第 13 回	テキストの計量分析 (2)	テキストデータの計量分析の実習
第 14 回	テキストの計量分析 (3)	テキストデータの計量分析のプログラミング、課題の出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は積み上げ型で理解が進むため、復習が特に重要となる。不明な点を講義中の質問あるいは講義後にメールで問い合わせ解消すること及び小課題を行うことが復習であり、同時に次回の準備学習になる。これまでの受講者から話を伺った限り、データ分析やプログラミングは復習にかかる時間は個人差があるため、一律何時間というのではなく各人のペースで復習を行うことになる。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を印刷して配布するため必要な教科書はない。

【参考書】

講義で行う実習に関連した（講義資料の作成に当たって用いた）書籍として下記の 3 冊を特記する。

・柴田淳 著、みんなの Python 第 4 版、SB クリエイティブ
・樋口耕一 著、社会調査のための計量テキスト分析、ナカニシヤ出版

・原泰史 著、Python による経済・経営分析のためのデータサイエンス、東京図書

また、データ分析の理屈や方法に関する書籍は近年数多く出版されており、講義の中でも何冊かを取り上げ、それぞれがどういう範囲のことが書かれているものであるかを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100%

なお、レポートは 1 回のみではなく、講義内の演習と講義後の宿題として複数回行われる。提出されたものを総合して成績評価を行う。課題は、プログラミングそのものの課題と、調査分析課題（プログラミングを道具として用いて何かを調べたり何かを分析したりする課題）に分かれる。課題に取り組んだ結果、講義の理解に不明な点がある場合は、次回以降の講義の中で補足説明を行う。補足説明に関しては受講生からのリクエストも受け付ける。そのため、採点としては最初の出題、提出のみではなく、不明点に関する質問や補足説明等を経た結果、理解できたことも評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は少人数講義であることから、各受講生の個別の理解度に合わせて質疑を行う時間は充分にあるが、受講生が不明点を言語化できるとは限らないため、受講生が理解度を顕在化させ、教える側はそれを把握して説明の方略を変更しやすいうようにするため、講義中に成績と結びつかない小課題や、ポイントしやすい小課題も所要所で実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自のノート PC（本年はオンライン授業であることから自宅のデスクトップ PC でも可）を用いる。

講義で使うソフトウェアをインストールする必要がある、インストール方法を図示したマニュアルを事前配布する。

【その他の重要事項】

本講義では、主にプログラミングの未経験者を想定しているため、他言語の経験等は全く必須ではない。

一方、データ分析の実習であることから、コンピュータそのものに慣れていないひと（ファイルやフォルダという言葉がわからない、Excel での集計をまったく行ったことがない、ソフトウェアのインストールをまったくしたことがない、など）は不明点を積極的に言語化する必要がある。

【担当教員の専門分野等】

<現職での専門分野>戦略コンサルティングにおけるデータアナリティクス

<研究者としての専門領域>科学計量学、計量書誌学

<過去の研究テーマ>日本における学術論文著者の構造、学術研究者の雇用市場、科学技術関係政策文書の変遷の計量

【Outline and objectives】

The objectives of this practical training is

1. To acquire programming skill. It consists of

1-1. the skill of specific programming language(We use Python in this lecture)

1-2. the skill of algorithm(how to order our demand to the computer)

2. Introducing how to analyze the data for your discussion.

SOC500E1 - 0302

学際研究3（歴史学の方法とその歴史・現在）

慎 蒼宇

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、歴史学の立場から学問として歴史を捉える方法について、現在の興味深い研究を素材に学んでいこうと思う。歴史学は理論と離れたものではないが、その独自の任務は実証によって問題に向かい、過去の事象を把握しえた根拠を明示することにある。その範囲は限られたものではあるが、それらを学ぶことで「歴史的思考」を豊かにするきっかけをつくることができると考えている。対象は東アジア近現代史。東アジアの歴史像、戦争や植民地支配の再検討、民衆運動史、現代の歴史学・歴史理論の問題点、といった点について、近年の研究を中心に「歴史学の現在」に接近を試みたい。

【到達目標】

東アジア近現代史を中心に、近年の歴史研究に触れることで、歴史学の問題意識や方法に対する理解を深め、各自の研究テーマに対し、大状況と小状況、支配と被支配の権力関係、歴史の連続と断絶、といったダイナミックな思考を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講読が基本になる。テキストについては最初の講義で決定する。テキストは全員読み、担当者はレジュメを作成して報告し、受講生で議論する。近年の研究については研究者をお招きし、学習会を行う。受講生の状況に応じて輪読の方法を決める。なお、本授業は、Zoomを使用してオンラインで実施する。毎回質疑応答の時間を多く設け、講義内容の理解を促進するためのコミュニケーションを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方／文献の選定など
第2回	方法から考える①	歴史学の基礎についての概論
第3回	方法から考える②	戦後歴史学の特徴について考える
第4回	方法から考える③	現代歴史学の成果と課題
第5回	方法から考える④	史料論から考える
第6回	東アジアと日本①	講読と討議
第7回	東アジアと日本②	講読と討議
第8回	東アジアと日本③	講読と討議
第9回	近年の特集を読む①	講読と討議
第10回	近年の特集を読む②	講読と討議
第11回	近年の特集を読む③	講読と討議
第12回	アクチュアルな課題①	講読と討議
第13回	アクチュアルな課題②	講読と討議
第14回	まとめ	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

決められたテキストは必ず全員読むことが必須。報告者は報告レジュメを作成すること。テキストが決まったら、関連した参考図書も第2回目に提示するので読むことを薦める。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回に打ち合わせを行い決定する。

【参考書】

講義のなかで適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

報告の水準（50%）、出席や講義での討論などの参加度（50%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

We learn with the present interesting study as a material about the way to catch history as learning from the view point of historical science. A target is East Asia short distance contemporary history.

SOC500E1 - 0303

学際研究4（社会ネットワークと組織）

宇野 齊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会ネットワークと組織について、理論、分析手法、現象把握を学びます。

【到達目標】

- 1 個人、組織、ネットワーク、社会の相互関係と現象の確認
- 2 ネットワーク分析プロセスの理解
- 3 受講者がネットワーク分析を実行できる事

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回テーマに関する授業とレポートおよびディスカッションを中心としてすすめます。

毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

本授業は Zoom を使用してリアルタイムオンラインで実施予定です。第1回の授業は、Zoom を使用してリアルタイムオンラインで実施します。学習支援システム（Hoppii）で科目に登録し、第1回に関するお知らせに対応してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 01 回	ガイダンスとイントロダクション	受講者との相互理解を深め、科目の内容などを確認
第 02 回	システムとネットワーク	システム論、ネットワーク論、組織論の相互関係性の把握
第 03 回	社会ネットワーク 1	基礎的な分析手法と指標
第 04 回	社会ネットワーク 2	パーソナルなネットワーク現象
第 05 回	社会ネットワーク 3	マス／ミドルレベルでのネットワーク現象
第 06 回	組織 1	制度と認知、及び意思決定
第 07 回	組織 2	組織の中の制度的ネットワーク
第 08 回	組織 3	組織の中の認知的ネットワーク
第 09 回	社会ネットワークと組織 1	社会の中のネットワークに生じる組織
第 10 回	社会ネットワークと組織 2	組織間ネットワーク
第 11 回	分析手法 1	ネットワーク情報の収集と分析
第 12 回	分析手法 2	例題による組織内ネットワーク分析
第 13 回	電子メディアでのネットワーク 1	閉鎖的ネットワークと開放的ネットワーク
第 14 回	電子メディアでのネットワーク 2	電子メディアで生じるネットワークと組織

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて授業支援システムに事前準備を提示します。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

初回および必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間かつ／または期末のレポート（60%）

授業中の参加度合及び授業後の授業支援システムによるコメント（40%）

その他の貢献は追加的に考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

紹介する参考書等から、各自の目的に応じて、相当数の読み込みをすべき、との指摘がありました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）を使用します。大学付与の電子メールアドレスを事前に登録しておいて下さい。必要に応じてインターネット上のサービスを利用します。

【その他の重要事項】

授業計画は授業展開と受講者の目的により若干変更の可能性があり得ます。

本授業は Zoom を使用してリアルタイムオンラインで実施予定です。対面開講できる様になった場合でも、何らかの理由で対面授業に参加出来ない場合にはリアルタイムオンラインで参加できる様に対応する予定です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会ネットワーク、組織行動科学、経営学
 <研究テーマ>コンテンツ産業の組織と社会ネットワーク
 <主要研究業績>宇野齊（2008）「組織とネットワーク」二神・日置編著、クラーター組織の経営学、中央経済社、第3章

【Outline and objectives】

In this course, students will learn theories and analytical methods for social networks and organizations.

The first purpose is to confirm the interrelationships and phenomena between individuals, organizations, networks and society.

The second is understanding the network analysis process.

The third is to confirm that the student can execute the network analysis by the network analysis for each student.

SOC500E1 - 0305

社会科学研究法 1

大崎 雄二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を第一言語としない外国人留学生を対象とする。社会学、社会科学の基礎概念を再確認しながら、修士課程における学びの基軸、必要不可欠なアカデミック・リテラシーを具体的に確認し、習熟していく。

【到達目標】

情報・文献検索の方法、データ分析の基本、日本語論文作成の方法、プレゼンテーションの方法等を確認し、修士課程の学生に相応しい情報の収集と分析、再構築、発信が支障なくできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

学生参加型のインタラクティブな演習、実習の形態とする。
教員からの問題提起と課題に対し、学生が質問、回答しながらより深い理解と習熟へと進むことができるよう授業を構成する。授業計画は、授業の展開によって若干の変更が生じる可能性もある。
課題等に対する講評は授業内でコメントするか、個別に伝える。
対面方式が原則であるが、大学の方針によっては zoom を利用したオンライン形式となる。初回の授業を含め、「学習支援システム」で連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	アイス・ブレイキング	役割分担決定等
2	情報の整理と要約（1）	論文の要約① キーワード、キープフレーズ
3	情報の整理と要約（2）	論文の要約② 要約のポイント
4	プレゼンテーション（1）	レジュメ作成のポイント① 形式
5	プレゼンテーション（2）	レジュメ作成のポイント② 内容
6	プレゼンテーション（3）	スライド作成のポイント
7	プレゼンテーション（4）	効果的な発表、相互批評・検討
8	情報、文献の検索と収集（1）	データベースの活用
9	情報、文献の検索と収集（2）	付加情報と脚註
10	情報、文献の検索と収集（3）	関連文献検索、参考文献一覧作成
11	データ分析の基本（1）	データ収集、処理の基礎
12	データ分析の基本（2）	データ分析の基礎
13	小論文の作成（1）	構想の発表と議論① 発表
14	小論文の作成（2）	構想の発表と議論② 議論と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談してから決める。

【参考書】

授業内でテーマごとに複数紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

参加 40 % + 課題 60 % で評価したい。

【学生の意見等からの気づき】

よりきめ細かい個別対応を進めるとともに、さらに積極的な議論ができる場作りに努力する。積極的な提案や意見は常に大歓迎。
教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【学生が準備すべき機器他】

パーソナルコンピュータを使った実習をおこなう際には事前に通知し、支障のないようにする。

課題は「学習支援システム」から提出のこと。

【担当教員の専門分野等】

東アジア（現代中国）地域研究（国民統合、民族政策）

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of social sciences. It also enhances the development of foreign students' skill in making oral and literal presentation and self-regulated learning.

SOC500E1 - 0306

社会科学研究法 2

大崎 雄二

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を第一言語としない留学生を対象とする。「社会科学研究法 1」の履修を前提として授業を進める。修士課程の学生に必要な不可欠なアカデミック・リテラシーを身につけ、自律的、批判的な学習、研究の主体として自立することを目指す。

【到達目標】

具体的なプレゼンテーションの方法等を確認しながら、修士課程の学生に相応しい情報の収集と分析、再構築、発信が十全にできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

学生参加型のインタラクティブな演習、実習の形態とする。
教員からの問題提起と課題（基本的には隔週とする）に対し、学生が質問、回答、発表をしながらより深い理解と習熟へと進むことができるよう授業を構成する。授業計画は、授業の展開によって若干の変更が生じる可能性もある。

課題等に対する講評は授業内でコメントするか、個別に伝える。
対面方式が原則であるが、大学の方針によっては zoom を利用したオンライン形式となる。初回の授業を含め、「学習支援システム」で連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	小論文の発表、講評と議論（1）	講評
2	小論文の発表、講評と議論（2）	議論と修正
3	文献講読（1）	キーワードの確認
4	文献講読（2）	キープフレーズの確認
5	文献講読（3）	要約のポイント
6	文献講読（4）	要約と表現
7	文献講読（5）	機能的なまとめ
8	文献講読（6）	注釈の効能
9	文献講読（7）	問題提起
10	文献講読（8）	課題設定
11	文献講読（9）	関連文献の検索
12	文献講読（10）	critical reading
13	小論文構想発表（1）	発表
14	小論文構想発表（2）	講評と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参加者の関心分野に応じ、相談して決める。

【参考書】

授業内でテーマごとに複数紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

参加 50 % + 課題 50 % で評価したい。

【学生の意見等からの気づき】

よりきめ細かい個別対応を進めるとともに、さらに積極的な議論ができる場作りに努力する。積極的な提案や意見は常に大歓迎。

教室でも zoom でも従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ることに。

【担当教員の専門分野等】

東アジア（現代中国）地域研究（国民統合、民族政策）

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of social sciences. It also enhances the development of foreign students' skill in making oral and literal presentation and self-regulated learning.

SOC500E1 - 0307

外国書講読 1（英語）

樋口 明彦

備考（履修条件等）：学部「外書講読（社会学）1A」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020年頃から猛威を振るったコロナ禍は、若者の暮らしを大きく変え、「コロナ世代 covid generation」を生み出した。本授業では、イギリスの事例を検討しながら、日本との国際比較を視野に入れた社会学的考察を行う。取り上げる主なテーマは、「政府のコロナ対策」「若者の日常生活」「学校」「失業」「メンタルヘルス」「政府への信頼感」などである。できるだけ臨場感を持った分析を目指すため、テキストは、学術論文だけでなく、新聞記事・政府統計・民間団体レポート・SNSなども活用する。

【到達目標】

①英語で書かれたテキストを読んで、政策評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

演習。

①イギリスにおけるコロナ対応の年表作成（合同作業）

②各自、提示されたテーマから1つ選んで、テキスト購読、レジュメ作成、報告

③日本の事例と比較しながらディスカッション

④各自、コロナ政策の評価レポート作成、報告

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

・本授業は、Zoomを使用してオンラインで実施する。オンラインでのアクセス方法は、学習支援システムの「授業情報」を通して連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イギリスのコロナ対策
2	イギリスの状況	年表作成
3	テキスト購読①	政府のコロナ対策
4	テキスト購読②	若者の日常生活
5	テキスト購読③	若者の家族生活
6	テキスト購読④	若者の交友生活
7	テキスト購読⑤	学校
8	テキスト購読⑥	失業
9	テキスト購読⑦	メンタルヘルス
10	テキスト購読⑧	政府への信頼感
11	評価レポート報告①	ディスカッション
12	評価レポート報告②	ディスカッション
13	評価レポート報告③	ディスカッション
14	まとめ	年表完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①テキスト購読、②レジュメ作成、③評価レポート作成
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは担当教員が準備する（原則、ネット上で閲覧可能）

Daisy Francourt, 2021 "People started breaking Covid rules when they saw those with privilege ignore them", The Guardian, 2 Jan 2021.

UCL COVID-19 Social Study, 2021, "Understanding the psychological and social impact of the pandemic".

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50%）、②評価レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講のため、なし

【専門領域】

社会政策

【研究テーマ】

若者政策

【主要業績】

乾彰夫・本田由紀・中村高康編、2017、『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

【Outline and objectives】

The impact of Covid-19 on young people

SOC500E1 - 0308

外国書講読 2 (英語)

樋口 明彦

備考(履修条件等): 学部「外書講読(社会学) 1B」と合同

実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

2020年からの猛威を振るったコロナ禍は、各国に未曾有のコロナ対策を促した。このような施策は市民の行動を大きく制限するため、市民の不満を増大させ、世界中でさまざまな抗議運動を引き起こすことにつながった。本授業では、『ポピュリズムのレトリックに回答する』というガイドブックを参照しながら、世界各国の抗議運動を検討し、その意味を社会的に考察する。できるだけ臨場感を持った分析を目指すため、テキストは、学術論文だけでなく、新聞記事なども活用する。

【到達目標】

①英語で書かれたテキストを読んで、政策評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

演習。

- ①『ポピュリズムのレトリックに回答する』の購読、レジュメ作成、報告
 ②各自、コロナ対策への抗議運動の事例から1つ選んで、テキスト購読、レジュメ作成、報告
 ③日本の状況と比較しながらディスカッション
 ④各自、抗議運動の評価レポート作成、報告
 ※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。
 ・本授業は、Zoomを使用してオンラインで実施する。オンラインでのアクセス方法は、学習支援システムの「授業情報」を通して連絡する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	コロナ対策と抗議運動
2	テキスト購読①	『ポピュリズムのレトリックに回答する』1章
3	テキスト購読②	『ポピュリズムのレトリックに回答する』2章
4	テキスト購読③	『ポピュリズムのレトリックに回答する』3章
5	テキスト購読④	『ポピュリズムのレトリックに回答する』3章(続き)
6	テキスト購読⑤	『ポピュリズムのレトリックに回答する』4章
7	テキスト購読⑥	事例検討①
8	テキスト購読⑦	事例検討②
9	テキスト購読⑧	事例検討③
10	テキスト購読⑨	事例検討④
11	評価レポート報告①	ディスカッション
12	評価レポート報告②	ディスカッション
13	評価レポート報告③	ディスカッション
14	まとめ	分析結果の集約

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①テキスト購読、②レジュメ作成、③評価レポート作成
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは担当教員が準備する(原則、ネット上で閲覧可能)
 Counterpoint, 2014, "Responding to Populist Rhetoric: A Guide".

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点(50%)、②評価レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

新規開講のため、なし

【専門領域】

社会政策

【研究テーマ】

若者政策

【主要業績】

乾彰夫他編、2017、『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

【Outline and objectives】

Protests over responses to the COVID-19 pandemic

SOC500E1 - 0307

外国書講読 1 (英語)

鈴木 宗徳

備考(履修条件等): 学部「外書講読(メディア社会学) 3A」と合同

実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

未邦訳の学術的な英文テキストを講読し、アカデミックな英文の読解に慣れる。

【到達目標】

英語の学術的文献を正確に理解する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週2~3ページずつテキスト講読を進めるが、受講者は必ず全訳を準備して授業に臨むこと。授業では一文ずつ訳読しながら理解を深めてゆき、文の構造や文脈について解説を加える。

授業内容やテストについての履修者の質問には、授業内やメールで迅速に対応する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テキストの説明
第2回	テキスト講読(1)	訳読と内容の検討
第3回	テキスト講読(2)	訳読と内容の検討
第4回	テキスト講読(3)	訳読と内容の検討
第5回	テキスト講読(4)	訳読と内容の検討
第6回	テキスト講読(5)	訳読と内容の検討
第7回	テキスト講読(6)	訳読と内容の検討
第8回	中間テスト	内容の理解度を測る
第9回	テキスト講読(7)	訳読と内容の検討
第10回	テキスト講読(8)	訳読と内容の検討
第11回	テキスト講読(9)	訳読と内容の検討
第12回	テキスト講読(10)	訳読と内容の検討
第13回	テキスト講読(11)	訳読と内容の検討
第14回	テキスト講読(12)	訳読と内容の検討

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回必ず予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Florian Bieber, Global Nationalism in Times of the COVID-19 Pandemic, Nationalities Papers, 2020, pp.1-13.

テキストは担当者個人のDropBoxからファイルをダウンロードできるので(<http://urx2.nu/PSsq>) 事前に1~2段落読んで難易度を確認しておくこと。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績(50%)と期末テストの成績(50%)。ただし、2回欠席するごとに成績評価を一段階ずつ下げる(S→A+, A+→A, A→A-...)

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

春学期は zoom によるオンライン授業を予定している。Hoppii によるメール連絡に気を付けること。質問は担当教員にメールで連絡すること (munenori@hosei.ac.jp)。

【Outline and objectives】

In this course, students practice reading academic English texts.

SOC500E1 - 0308

外国書講読 2 (英語)

鈴木 宗徳

備考 (履修条件等)：学部「外書講読 (メディア社会学) 3 B」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

未邦訳の学術的な英文テキストを講読し、アカデミックな英文の読解に慣れる。

【到達目標】

英語の学術的文献を正確に理解する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週 2~3 ページずつテキスト講読を進めるが、受講者は必ず全訳を準備して授業に臨むこと。授業では一文ずつ訳読しながら理解を深めてゆき、文の構造や文脈について解説を加える。

授業内容やテストについての履修者の質問には、授業内やメールで迅速に対応する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	テキストの説明
第 2 回	テキスト講読 (1)	訳読と内容の検討
第 3 回	テキスト講読 (2)	訳読と内容の検討
第 4 回	テキスト講読 (3)	訳読と内容の検討
第 5 回	テキスト講読 (4)	訳読と内容の検討
第 6 回	テキスト講読 (5)	訳読と内容の検討
第 7 回	テキスト講読 (6)	訳読と内容の検討
第 8 回	中間テスト	内容の理解度を測る
第 9 回	テキスト講読 (7)	訳読と内容の検討
第 10 回	テキスト講読 (8)	訳読と内容の検討
第 11 回	テキスト講読 (9)	訳読と内容の検討
第 12 回	テキスト講読 (10)	訳読と内容の検討
第 13 回	テキスト講読 (11)	訳読と内容の検討
第 14 回	テキスト講読 (12)	訳読と内容の検討

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回必ず予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

George Ritzer and Nathan Jurgenson, Production, Consumption, Prosumption, Journal of Consumer Culture 10(1), 2010, pp.13-36.

テキストは担当者個人の DropBox からファイルをダウンロードできるので (<http://urx2.nu/PSsq>)、事前に 1~2 段落読んで難易度を確認しておくこと。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績 (50%) と期末テストの成績 (50%)。ただし、2 回欠席するごとに、成績評価を一段階ずつ下げます (S→A+, A+→A, A→A- …)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

秋学期もオンライン授業になる場合は、zoomの利用を予定しています。
質問は担当教員にメールで連絡すること (munenori@hosei.ac.jp)。

【Outline and objectives】

In this course, students practice reading academic English texts.

SOC500E1 - 0307

外国書講読 1 (仏語)

高橋 愛

備考 (履修条件等)：学部「フランス語上級A 1・B 1」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語の成句的表現は、聖書やギリシャ・ローマ神話、フランスおよびヨーロッパの古典、有名な歴史上の出来事に由来しており、フランス文化のエッセンスであることは言を俟たない。本授業は『フランス語表現宝典』を通してこれらの成句的表現について読み、フランス語の力を向上させながら、フランス文化の重層性を理解することを目的とする。

【到達目標】

イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、辞書を引きながら専門分野の文献を読み、正しく理解できるレベルの読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・毎回、次週までに取り組む箇所を教員が指定し、その箇所の文章を構文や時制などに注意しながら読み進める。(範囲を定め、難しいと思われるところはあらかじめ教員から説明し、毎回の添削も行うので安心して臨んでほしい。)
・この授業は、基本的にオンデマンド授業形式で行う。
・授業のはじめに、前回の課題で示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、教科書の説明
2	講読、第1回目	・ Sésame, ouvre-toi! ・ C'est la pomme de Newton
3	講読、第2回目	・ Le demi-monde ・ Les yeux d'Argus
4	講読、第3回目	・ Se porter comme le Pont-Neuf ・ Tuer la poule aux œufs d'or
5	講読、第4回目	・ Un narcissé ・ Une pomme de discorde
6	講読、第5回目	・ Un Don Quichotte ・ Attacher le grelot
7	講読、第6回目	・ Être médusé ・ Encore un moment, Monsieur le bourreau !
8	講読、第7回目	・ Le retour de l'enfant prodigue ・ L'argent n'a pas d'odeur
9	講読、第8回目	・ L'âne de Buridan ・ Adorer le veau d'or
10	講読、第9回目	・ Le Juif errant
11	講読、第10回目	・ La terre promise
12	講読、第11回目	・ Les bottes de sept lieues
13	講読、第12回目	・ Tendre l'autre joue
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、訳出する部分を課題として指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Sylvie Weil, Louise Rameau, 『フランス語表現宝典 第2集』 *Trésors des expressions françaises II* (中川信吾、原田佳彦編注)、駿河台出版社、1992年

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題の内容を評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

予習をして難しかった部分や訳出しにくかったところは、遠慮なく質問してほしい。

【担当教員の専門分野】

「法政大学学術研究データベース」の URL
<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html>

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels.

SOC500E1 - 0308

外国書講読 2 (仏語)

高橋 愛

備考 (履修条件等)：学部「フランス語上級 A 4・B 4」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語の成句的表現は、聖書やギリシャ・ローマ神話、フランスおよびヨーロッパの古典、有名な歴史上の出来事に由来しており、フランス文化のエッセンスであることは言を俟たない。春学期に引き続き、本授業は『フランス語表現宝典』の後半を通して成句的表現について読み、フランス語の力を向上させながら、フランス文化の重層性を理解することを目的とする。

【到達目標】

イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、辞書を引きながら専門分野の文献を読み、正しく理解できるレベルの読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・毎回、次週までに取り組む箇所を教員が指定し、その箇所の文章を構文や時制などに注意しながら読み進める。(範囲を定め、難しいと思われるところはあらかじめ教員から説明し、毎回の添削も行うので安心して臨んでほしい。)
 ・この授業は、基本的にオンデマンド授業形式で行う。
 ・授業のはじめに、前回の課題で示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講読、第 1 回目	・ Le radeau de la Méduse
2	講読、第 2 回目	・ Un vilain petit canard
3	講読、第 3 回目	・ Le complexe d'Œdipe
4	講読、第 4 回目	・ Le chien d'Ulysse
5	講読、第 5 回目	・ Se reposer sur ses lauriers
6	講読、第 6 回目	・ Veni, vidi, vici
7	講読、第 7 回目	・ Franchir le Rubicon
8	講読、第 8 回目	・ Aller à Canossa
9	講読、第 9 回目	・ La porte étroite
10	講読、第 10 回目	・ Un saint Thomas
11	講読、第 11 回目	・ C'est la montagne qui accouche d'une souris
12	講読、第 12 回目	・ L'épée de Damoclès
13	講読、第 13 回目	・ Un écho
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、訳出する部分を課題として指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Sylvie Weil, Louise Rameau, 『フランス語表現宝典 第 2 集』 *Trésors des expressions françaises II* (中川信吾、原田佳彦編注)、駿河台出版社、1992 年

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題の内容を評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

予習をして難しかった部分や訳出しにくかったところは、遠慮なく質問してほしい。

【担当教員の専門分野】

「法政大学学術研究データベース」の URL
<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html>

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels.

SOC500E1 - 0307

外国書講読 1 (独語)

三浦 美紀子

備考 (履修条件等)：学部「ドイツ語上級 A 1・B 1」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまなテーマの文章を丁寧に読んで、読解力を増強し、ドイツ語圏事情をより詳しく理解する。

【到達目標】

30 行程度のまとまったテキストを丁寧に読むことができる。

テキスト内容を理解したかどうかチェックするため、ドイツ語の質問文に答えることができる。

穴埋め、文の書き換えといった文法問題を解いて、文法力をさらにアップさせる。

テキストと文法問題の文から、ドイツ語圏の日常生活や社会の仕組みを理解し、説明できる。

テキストの内容をまとめ、日本と比較して、ドイツ語の文で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業はオンデマンド授業 (資料型) で実施する。

詳細は学習支援システムを確認すること。

提出課題については、次の回に「解答と解説」の文書を学習支援システムで配信、試験に関しても、後日、学習支援システムで解説文書を配信して、フィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ドイツ人は家族の間でなんと呼び合うか?	ガイダンスのあと、動詞の現在人称変化と動詞の位置について復習しながら、1 頁のテキストを読む。
2	形容詞の名詞的用法と「述語の 2 格」	2 頁の文法説明と 3 頁の「テキストの内容を確認しよう」
3	さすがドイツーマン ションの掃除は当番制!	集合住宅での掃除当番制について、5 頁のテキストを読む。
4	「枠構造」、前置詞目的語を取る動詞と形容詞	6 頁の文法説明と 7 頁の「テキストの内容確認」
5	ドイツ人は風呂が嫌い?	ドイツ人のシャワーの浴び方や入浴習慣について、11 頁のテキストを読む。
6	外交的接続法、特別な意味を持つ前置詞、「所有の 3 格」	12 頁の文法説明と 13 頁の「テキストの内容を確認しよう」
7	閉店法 - 日曜日には何も買えない!	日常生活と密接な関係がある「閉店法」について、15 頁のテキストを読む。
8	副文の短縮	16 頁の文法説明と 17 頁の「テキストの内容を確認しよう」
9	シュワルツェネッカーとボディービル	以前と違い、ボディービルディングなど、スポーツつたでいおが人気上昇中の風潮を語った、21 頁のテキストを読む。
10	不定関係代名詞、冠飾句	22 頁の文法説明と 23 頁の「テキストの内容を把握しよう」

- 11 ドイツ人が一番好きな スポーツ-サッカー サッカーとそれに関わるフリーガンやサッカーくじなどについて、25 頁のテキストを読む。
- 12 さまざまな受動表現、関係副詞 26 頁の文法説明と、27 頁の「テキストの内容を確認しよう」
- 13 「独検にチャレンジ!」、2 級と準 1 級 レベルの文法問題 教科書の 9、19、29 頁にある問題を解く。
- 14 期末試験 試験、まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。テキストを事前に読み、演習問題を予習して準備する。授業後、正答が出せなかった箇所重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

【テキスト（教科書）】

「グレードアップドイツ語」、橋本政義・Bernhard Neuberger・橋本淑恵 著、郁文堂、2017 年、本体 2500 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

成績の内訳は、平常点（各課の課題提出）60%、レポート課題 15%、期末の課題 25%とする。

読解力がどの程度アップしたかを 2 回のレポート課題（テキストのレジュメ、および日本との比較を 10 文程度のドイツ語にまとめる）と期末の課題で確かめる。

実力をつけるには日ごろの努力が欠かせないので、各課の提出課題に見る不断の学習状況を平常点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

提出する課題の分量や作成期間について、過度の負担にならないよう、適宜調節を行う。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの連絡先は、
mikiko.miura34@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

Improve reading comprehension by means of various texts on Germany and become more familiar with actualities in Germany and Europe.

SOC500E1 - 0308

外国書講読 2（独語）

三浦 美紀子

備考（履修条件等）：学部「ドイツ語上級 A 4・B 4」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマの文章を丁寧に読んで、読解力を増強し、ドイツ語圏事情をより詳しく理解する。

【到達目標】

30 行程度のまとまったテキストを丁寧に読むことができる。テキストの内容を理解したかどうかをチェックするため、ドイツ語の質問文に答えることができる。穴埋め、文の書き換えといった文法問題を解いて、文法力をさらにアップさせる。テキストと文法問題の文から、ドイツ語圏の現状について、グローバルな視点から理解し、説明することができる。テキストの内容をまとめ、日本と比較して、ドイツ語の文で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業はオンデマンド（資料型）で実施する。詳細は学習支援システムを確認すること。提出課題については、次の回に「解答と解説」の文書を学習支援システムで配信、試験に関しても、後日、学習支援システムで解説文書を配信して、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	世界最大の民族祭-オクトーバーフェスト	ミュンヘンの有名なビール祭りである「オクトーバーフェスト」の歴史や現状について、31 頁のテキストを読む。
2	「枠外配置」、不定代名詞の名詞的用法	32 頁の文法説明のあと、33 頁「テキストの内容を確認しよう」
3	大学の授業料の行方は？	ドイツの国公立大学は、長い間、「授業料は無料」でやってきたが、さっこの動きについて、35 頁のテキストを読む。
4	「機能動詞」	36 頁の問題を解きながら文法説明をしたのち、37 ページ「テキストの内容を確認しよう」
5	ドイツ人の友達を作ろう！	ドイツでドイツ人の友人を得るにはどうしたらよいか、アドバイス形式になっている 41 頁のテキストを読む。
6	さまざまな命令表現	42 頁の練習問題を解きながら、命令のニュアンスを持つ様々な表現を学んだ後、43 頁「テキストの内容を確認しよう」
7	ドイツでは離婚が多い？	ドイツの離婚事情について、45 頁のテキストを読む。
8	話法の助動詞の注意すべき用法	46 頁、zu 不定詞や受動不定詞と用いられる場合など、話法の助動詞のまとめのち、47 頁「テキストの内容を確認しよう」

- 9 シュタイナー学校－理想の教育とは？ ルードルフ・シュタイナーの教育論に基づく私立学校ヴァルドルフシュレーについて、51ページのテキストを読む。
- 10 es のさまざまな使い方 52 ページで es のさまざまな使い方をまとめた後、53 頁「テキストの内容を確認しよう」
- 11 正しい留学のすすめ ドイツの大学に留学して学ぶ場合のアドバイスを 7 綴った、55 頁のテキストを読んでいく。
- 12 相關的接続詞 56 ページの説明のあと、57 ページの「テキストの内容を確認しよう」
- 13 独検にチャレンジ！ 教科書 39 頁、49 頁、59 ページにある、ドイツ語検定 2 級・準 1 級レベルの文法問題を解く。
- 14 期末試験 試験、まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
テキストを事前に読み、演習問題を予習して準備する。
授業後、正答が出せなかった箇所重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

【テキスト（教科書）】

「グレードアップドイツ語」、橋本政義・Bernhard Neuberger・橋本淑恵 著、郁文堂、2017 年、本体 2500 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

成績の内訳は、期末試験 50%、レポート課題 20%、平常点 30%（授業での学習状況、参加度）とします。
読解力がどの程度アップしたかを期末試験と 3 回のレポート課題で確かめます。
レポート課題は、テキストのレジュメ、および日本との比較を 10 文程度のドイツ語にまとめる提出物です。
実力をつけるには日ごろの努力が欠かせませんから、通常の課題提出を含めた不断の学習状況を平常点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出する課題の分量や作成期間について、過度の負担にならないよう、適宜調節する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーの連絡先は：
mikiko.miura.34@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

Improve reading comprehension by means of various texts on Germany and become more familiar with actualities in Germany and Europe.

SOC500E1 - 0307

外国書講読 1（中国語）

大崎 雄二

備考（履修条件等）：学部「中国語上級 A 1・B 1」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍、雑誌、新聞等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

1. ローマ字（ピンイン）は補助的な使用のみにしていく
2. 文成分の分析が正確にできる
3. 文章語独自の表現や構造等に慣れる
4. 辞書を引くことに習熟しながら「類推する力」を涵養する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

主語、述語、修飾語、補語等の文成分や文構造の分析を徹底しながら文意を正確に理解する練習を重ねる。最初はローマ字（ピンイン）つきのテキストを用いるが、常用語から段階的にテキストのピンインは消去していく。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。課題等に対しての講評は授業内でコメントするか、個別に伝える。

対面方式が原則であるが、大学の方針によっては zoom を利用したオンライン形式となる。初回の授業を含め、「学習支援システム」で連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	精読の基礎（1）	文成分／構造分析① 主語
2	精読の基礎（2）	文成分／構造分析② 述語
3	精読の基礎（3）	文成分／構造分析③ 連体修飾語
4	精読の基礎（4）	文成分／構造分析④ 連用修飾語
5	精読の基礎（5）	文成分／構造分析⑤ 補語
6	精読の基礎（6）	文成分／構造分析⑥ その他の文成分
7	精読の基礎（7）	辞書を使いこなす①
8	精読の基礎（8）	辞書を使いこなす② web の活用
9	精読の基礎（9）	辞書にない単語の検索
10	精読の基礎（10）	辞書にない事項の検索
11	文章の精読（1）	現代中国を読み解く①
12	文章の精読（2）	現代中国を読み解く②
13	文章の精読（3）	現代中国を読み解く③
14	文章の精読（4）	現代中国を読み解く④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 確実な予習
 2. 「中級」までの文法の系統的復習
 3. 新聞、雑誌、web 等の記事検索
 4. 関連項目の調査、読書等
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。
e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを 100 % として総合的に評価する。公正で的確な評価の具体的な方法については、皆で改めて検討してみたい。

【学生の意見等からの気づき】

教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

せっかく「初級」、「中級」と積み上げてきた中国語、もう一踏ん張りして、仕事や研究で実際に「使える中国語」に取り組んでほしい。「上級」とはいえ、専攻課程ならば基礎を終えた 2 年次程度の内容である。

将来の留学や研究、業務に役立てるため本格的に読解力の向上に取り組みたい好奇心旺盛な学生は大歓迎。漢語文化圏における「現在進行形」の政治や経済、社会、文化に興味をもち、記事をもとに全員で活発な議論が展開できることを期待している。

【Outline and objectives】

Advanced Chinese (Reading)

SOC500E1 - 0308

外国書講読 2 (中国語)

大崎 雄二

備考 (履修条件等) : 学部「中国語上級 A 4・B 4」と合同

実務教員 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代漢語 (中国語) で書かれた書籍、雑誌、新聞等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

「1」で培った力をもとに新聞、雑誌、書籍などの文章の読解をおこなう。授業では、

1. 長く難解な文の読解 (文成分、文の構造分析の徹底)
2. 辞書に載っていない新語や表現の解釈のための情報収集等の共同作業を通してさらに実力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

新聞や雑誌、書籍の文章の読解を通じ、「言語の翻訳」だけではなく背景理解 = 「文化や制度の翻訳」にまで踏み込み、常用、慣用的表現にも習熟していく。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

課題等に対する講評は授業内でコメントするか、個別に伝える。

対面方式が原則であるが、大学の方針によっては zoom を利用したオンライン形式となる。初回の授業を含め、「学習支援システム」で連絡する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	時事的な文章の精読 (1)	文成分、構造分析をしながらの精読 (1)
2	時事的な文章の精読 (2)	文成分、構造分析をしながらの精読 (2)
3	時事的な文章の精読 (3)	文成分、構造分析をしながらの精読 (3)
4	時事的な文章の精読 (4)	文成分、構造分析をしながらの精読 (4)
5	時事的な文章の精読 (5)	文成分、構造分析をしながらの精読 (5)
6	時事的な文章の精読 (6)	文成分、構造分析をしながらの精読 (6)
7	時事的な文章の精読 (7)	文成分、構造分析をしながらの精読 (7)
8	多読、速読 (1)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (1)
9	多読、速読 (2)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (2)
10	多読、速読 (3)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (3)
11	多読、速読 (4)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (4)
12	多読、速読 (5)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (5)
13	多読、速読 (6)	多様な形、内容の文をより多く、速く読む (6)

- 14 多読、速読（7） 多様な形、内容の文をより多く、速く読む（7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 確実な予習
 2. 「中級」までの文法の系統的復習
 3. 新聞、雑誌、web等の記事検索
 4. 関連項目の調査、読書等
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学生の興味やレベルに合わせて教材を考え、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learningには、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufts.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価する。公正で的確な評価の具体的な方法については、皆で改めて検討してみたい。

【学生の意見等からの気づき】

教室でもzoomでも従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

辞書を丹念に引きながら文成分を確認していくという地道な努力を重ねていくうちに、WEB上の記事や新聞などがだんだんとよくわかるようになり、自分でも驚くほどの力がついていることにある日突然気が付くはず。一日も早いその日の到来をお楽しみに！

【Outline and objectives】

Advanced Chinese (Reading)

SOC500E1 - 0309

社会学原典講読

小林 直毅

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会学原典研究2」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生権力」だけにとどまらず、『臨床医学の誕生』や『知の考古学』などの著作となって現れたMichel Foucaultの思想を源流とする「身体社会学」の成果と課題を、この分野の基本的文献を読み解くことで考察する。

【到達目標】

20世紀後半以降の社会学の思想的展開とその優れた実践的成果のひとつとして「身体社会学」を、「生権力」「身体」「言説」「知」「近代」「文化」「政治」「メディア」といった多角的視点から理解し、考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

今日では「身体社会学」の原典ともいえるもっとも基本的な文献のひとつである、Bryan S. Turner (2008) *The Body and Society: Explorations in Social Theory, Third Edition*, Sage Publications. を講読する。毎回の授業では、参加者が各自の関心に応じてテキストの章を分担し、それぞれの内容のレジュメを準備して報告、討論する。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

*本授業は原則として対面形式で実施するが、受講者の希望があればオンラインでの参加も可とする。なお、第1回の授業はオンラインを併用して実施するので、オンラインでの受講を希望する場合は、学習支援システムの「授業情報」に記載のあるメールアドレスまで、その旨、あらかじめ連絡すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代の社会学思想の成り立ちを考える。
第2回	The Mode of Desire	テキストの第1章を講読し、討論する。
第3回	Sociology and the Body	テキストの第2章を講読し、討論する。
第4回	The Body and Religion	テキストの第3章を講読し、討論する。
第5回	Bodily Order	テキストの第4章を講読し、討論する。
第6回	Eve's Body	テキストの第5章を講読し、討論する。
第7回	The End of Patriarchy?	テキストの第6章を講読し、討論する。
第8回	The Disciplines	テキストの第7章を講読し、討論する。
第9回	Government of the Body	テキストの第8章を講読し、討論する。
第10回	Disease and Disorder	テキストの第9章を講読し、討論する。
第11回	Ontology of Difference	テキストの第10章を講読し、討論する。
第12回	Bodies in Motion	テキストの第11章を講読し、討論する。
第13回	The Body and Boredom	テキストの第12章を講読し、討論する。
第14回	Epilogue: Vulnerability and Values	テキストの第13章を講読し、討論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Bryan S. Turner (2008) *The Body and Society: Explorations in Social Theory, Third Edition*, Sage Publications.

【参考書】

Alan Petersen and Robin Bunton (eds.) (1997) *Foucault, Health and Medicine*, Routledge.

Deborah Lupton (2012) *Medicine as Culture: Illness, Disease and the Body, Third Edition*, Sage Publications.

【成績評価の方法と基準】

分担報告（50%）、討論（50%）の達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003年）
 『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004年）
 『水俣学講義【第2集】』（共著、日本評論社、2005年）
 『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006年）
 『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007年）
 『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007年）
 『ポピュラーTV』（共著、風塵社、2009年）
 『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012年）
 『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013年）
 『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014年）
 『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018年）

【Outline and objectives】

Graduate students will be able to read and understand the basic literature of sociology of body originating from Foucault's thought.

SOC700E1 - 0200

社会学総合演習 A

社会学研究科教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程の学生が、査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れてまとめた研究論文を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究論文執筆のスキルを高めることを目的としている。また、参加する院生がお互いの研究論文を検討することを通じて、研究論文執筆のスキルを相互に学ぶ機会とする。

【到達目標】

査読付きの学術雑誌への論文掲載や学会での研究発表に向けて研究論文を執筆し、その内容を報告し、フィードバックを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

7月中旬頃に、院生が査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れて作成した研究論文に対して、複数の教員が「模擬査読」をおこなう「投稿論文検討会」を開催する。履修学生は所定の期限（6月末を予定）までに、当日検討する研究論文を担当教員に提出すること。投稿論文検討会までの論文作成指導は指導教員が、それ以後の論文改善指導は「模擬査読」担当教員がおこなう。課題等へのフィードバックは「投稿論文検討会」内で行う。

なお、授業形式は対面での実施を原則とするが、希望があればオンラインでの参加を認める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期集中

回	テーマ	内容
第1回	論文作成指導（1）	指導教員による
第2回	論文作成指導（2）	指導教員による
第3回	論文作成指導（3）	指導教員による
第4回	論文作成指導（4）	指導教員による
第5回	論文作成指導（5）	指導教員による
第6回	投稿論文検討会	1 時限
第7回	投稿論文検討会	2 時限
第8回	投稿論文検討会	3 時限
第9回	投稿論文検討会	4 時限
第10回	投稿論文検討会	5 時限
第11回	論文改善指導（1）	模擬査読担当者による
第12回	論文改善指導（2）	模擬査読担当者による
第13回	論文改善指導（3）	模擬査読担当者による
第14回	論文改善指導（4）	模擬査読担当者による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

提出された研究論文と当日の報告内容をふまえ、P（合格）／F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to help doctoral students improve their research and writing skills for peer reviewed papers. Each participant is expected to give advice to other students as well as learn from the teaching staff's advice.

社会学総合演習 B

社会学研究科教員

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆にむけて、博士後期課程の学生が自分の博士論文の構想を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究を進めることを目的としている。また、参加する院生が相互にそれぞれの問題意識や研究方法から学ぶ機会とする。

【到達目標】

先行研究を踏まえ、自身の問題意識を明確化し、研究内容について理解を深め、研究のさらなる進展またはよりよい研究の成果にむけて検討を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1 月下旬頃に、博士論文の構想を報告する「博論構想報告会」を開催する。履修学生は所定の期限（12 月下旬を予定）までに、報告タイトルを担当教員に提出すること。博論構想報告会の前は博論構想指導、報告会後の博論執筆指導は、いずれも指導教員がおこなう。

課題等へのフィードバックは「博論構想報告会」内で行う。

なお、授業形式は対面での実施を原則とするが、希望があればオンラインでの参加を認める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期集中

回	テーマ	内容
第 1 回	博論構想指導 (1)	指導教員による
第 2 回	博論構想指導 (2)	指導教員による
第 3 回	博論構想指導 (3)	指導教員による
第 4 回	博論構想指導 (4)	指導教員による
第 5 回	博論構想指導 (5)	指導教員による
第 6 回	博論構想報告会	1 時間
第 7 回	博論構想報告会	2 時間
第 8 回	博論構想報告会	3 時間
第 9 回	博論構想報告会	4 時間
第 10 回	博論構想報告会	5 時間
第 11 回	博論執筆指導 (1)	指導教員による
第 12 回	博論執筆指導 (2)	指導教員による
第 13 回	博論執筆指導 (3)	指導教員による
第 14 回	博論執筆指導 (4)	指導教員による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

博論構想報告会当日の内容をふまえ、P（合格）／F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to help doctoral students finish their Ph.D. dissertation. Each participant is expected to report his/her plan for the dissertation and improve it by advice from teaching staff and other students.

社会学研究 1

ジョナサン・ブラウン

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. Read texts critically and analyze the varied situations that motivate writers, the choices that writers make, and the effects of those choices on readers;
2. Analyze how writers employ content, structure, style, tone, and conventions appropriate to the demands of a particular audience, purpose, context, or culture;
3. Write persuasive arguments that articulate a clear, thoughtful position, deploy support and evidence appropriate to audience and purpose, and consider counterclaims and multiple points of view, including international and intercultural perspectives;
4. Respond constructively to drafts-in-progress, applying rhetorical concepts to revisions of your own and peers' writing;
5. Analyze multiple modes of communication and the ways in which a wide range of rhetorical elements (both written and visual) and cultural elements operate in the act of persuasion; and
6. Evaluate sources and integrate the ideas of others into your own writing (through paraphrase, summary, analysis, and evaluation).

【到達目標】

- Summarizing/paraphrasing others' ideas.
- Reflecting and analyzing ideas.
- Responding to other's ideas.
- Reading critically.
- Understanding the components of an argument.
- Understanding the structure of an argument.
- Reasoning for or against a claim.
- Presenting ideas from external sources.
- Synthesizing multiple sources.
- Formulating and presenting an original argument.
- Supporting your argument with evidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The primary focus of this course is on clarity, organization, rhetorical patterns, style, and overall good writing practices in academic English. Students will also be expected to maintain a reading journal based on the readings provided by the instructor (from William Zinsser's *On Writing Well*). Each reading will be read outside of class and discussed together in groups and/or as a whole class. The essay writing in this class will utilize the process approach. Students will produce multiple drafts of each essay with each subsequent draft incorporating suggestions/revisions from classmates and/or the instructor.

The course, in principle, will be taught in person. However, depending on COVID-19 and students' personal situations, classes may be conducted via Zoom and/or Google Classroom. Feedback will be given directly on assignments using MS Word's comments and track changes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Guidance/Self-introductions	<ul style="list-style-type: none"> Syllabus and course explanation General essay structure Rd. Jackie Robinson's Free Minds and Hearts at Work Free Minds and Hearts at Work class discussion
第 2 回	Summary & Response	<ul style="list-style-type: none"> Draft 1 How to write a summary and response Peer review - What kind of things should we look for in ours and our classmates' writing? Rd. Zinsser Chs. 1-2 Draft 2
第 3 回	Summary & Response continued	<ul style="list-style-type: none"> Discuss Zinsser Chs. 1-2 Comma usage Summary & Response Final Draft
第 4 回	Critique Essay	<ul style="list-style-type: none"> Rd. Zinsser Chs. 3-4 Discuss Zinsser Chs. 3-4 Cutting clutter Rd. Kaplan's Cultural Thought Patterns in Inter-Cultural Education Find and read an article about contrastive and/or intercultural rhetoric Introduce your article (summary and response)
第 5 回	Critique Essay continued	<ul style="list-style-type: none"> What is a critique and how to write one Discuss Kaplan When to use passive/active voice Rd. Zinsser Chs. 5-7 Draft 1
第 6 回	Critique Essay continued	<ul style="list-style-type: none"> Discuss Zinsser Chs. 5-7 Citing sources (APA format) Logos, Pathos, Ethos Draft 2
第 7 回	Research Paper	<ul style="list-style-type: none"> Logical fallacies Final draft
第 8 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> Logical fallacies continued Organization of a research paper
第 9 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> Rd. Zinsser Chs. 8-9 Synthesizing sources Discuss Zinsser Chs. 8-9 Draft 1
第 10 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> Peer Review Draft 2
第 11 回	Research Paper continued	<ul style="list-style-type: none"> Peer Review Final Draft
第 12 回	Poster Presentation	<ul style="list-style-type: none"> Preparing a poster presentation
第 13 回	Poster Presentation continued	<ul style="list-style-type: none"> Work on poster presentations
第 14 回	Poster Presentations continued	<ul style="list-style-type: none"> Poster presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials provided by instructor.

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Summary & Response Essay: 20%

Critique Essay: 25%

Research Essay: 25%

Poster Presentation: 20%

Class Discussions: 10%

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

英語学、言語学

<研究テーマ>

作文、修辞学、対照分析、談話分析

<主要研究業績>

In defense of Contrastive Rhetoric (2020). JALT2020 Conference. 学会発表

Using Rhetorical Structure Theory for contrastive analysis at the micro and macro levels of discourse (2019). 博士論文

Using Rhetorical Structure Theory for contrastive purposes: A pilot study (2018). OnCUE Journal, 11(1), 3-24. 論文

【Outline and objectives】

1. Read texts critically and analyze the varied situations that motivate writers, the choices that writers make, and the effects of those choices on readers;

2. Analyze how writers employ content, structure, style, tone, and conventions appropriate to the demands of a particular audience, purpose, context, or culture;

3. Write persuasive arguments that articulate a clear, thoughtful position, deploy support and evidence appropriate to audience and purpose, and consider counterclaims and multiple points of view, including international and intercultural perspectives;

4. Respond constructively to drafts-in-progress, applying rhetorical concepts to revisions of your own and peers' writing;

5. Analyze multiple modes of communication and the ways in which a wide range of rhetorical elements (both written and visual) and cultural elements operate in the act of persuasion; and

6. Evaluate sources and integrate the ideas of others into your own writing (through paraphrase, summary, analysis, and evaluation).

SOC500E1 - 0201

社会学研究2

仁平 典宏

備考（履修条件等）：修士課程「社会学特殊研究5」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフーコー的言説分析から、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説／社会の関係に関する存在論・認識論的な前提が厳しく問われることもある。

本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的にはワークも活用しながら理解を深めていきたい。なお受講者は言説研究の経験の有無を問わない。

【到達目標】

- ・言説を社会的に分析する上で、いかなる方法的立場があるか理解できるようになる
- ・それぞれの方法には、どのような前提と課題があるのか理解できるようになる
- ・KH コーダーを用いた計量テキスト分析の基礎的操作ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・コロナの感染が抑えられている場合は対面で行うが、そうでない場合は、Zoom を利用しオンラインで行う。Zoom での授業実施となった場合には、学習支援システムでアドレスやログイン方法等を伝える。
- ・テーマごとの課題論文を提示するので事前に読んで上で、各自コメントペーパーを作成する。それに基づくディスカッションを行う。
- ・KH コーダーというフリーのソフトウェアを用いたテキストマイニングの実習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期集中

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の趣旨と流れを説明する。
第2回	教育言説の分析	「いじめ」など教育問題を取り上げた言説に関する論文を検討する。
第3回	新聞記事から読み取れること	「いじめ」等に関する実際の新聞記事を概観し、どのような変化が見て取れるかを体験・議論するワークを行う。
第4回	方法的構築主義とは何か	方法的構築主義の意味と、それがもたらしたインパクトについて検討する。
第5回	方法的構築主義の展開と困難	方法的構築主義がどのように発展し、どのような困難に直面しているか検討する。
第6回	言説と公式統計	言説と公式統計の関係について検討する。
第7回	歴史と構築主義	歴史を構築主義的に捉えることの意味について検討する。
第8回	概念分析とは何か	概念分析という手法について理解を深める。

第9回	対話的構築主義をめぐって	対話的構築主義について、その内容と意義を検討する。
第10回	言説と因果推論	言説を扱いつつ、因果関係にいかに向けるか、関連する論文を読んで検討する。
第11回	計量テキスト分析の地平	計量テキスト分析に関する論文を通じて、その特徴について検討する。
第12回	テキストマイニング実習1	KH コーダーの使い方について実習する。
第13回	テキストマイニング実習2	KH コーダーを実際に使って、分析を試みる。
第14回	総括討論	総括討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回に連絡する

【参考書】

佐藤俊樹・友枝敏雄編『言説分析の可能性—社会学的方法の迷宮から』東信堂
スペクター, J.I. & キッセ, M.B. 『社会問題の構築—ラベリング理論を超えて』マルジュ社
中河伸俊・赤川学編『方法としての構築主義』勁草書房
酒井泰斗他編『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版
樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
等

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学（市民社会論、福祉社会学、教育社会学）
<研究テーマ>

日本型生活保障システムの再編下における社会の構造変容と帰結について、セクター間関係、及び、サブシステム間関係に注目して研究している。

<主要研究業績>

『ボランティアの誕生と終焉—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』（名古屋大学出版会、2011年）
『教育学年報11 教育研究の新章』（共編著、世織書房、2019年）
『平成史【完全版】』（共著、河出書房新社、2019年）
『市民社会論—理論と実証の最前線』（共著、法律文化社、2017年）

【Outline and objectives】

It has been produced a lot of sociological studies on discourses, which are based on a variety of theories and methodologies including

social constructionism, Foucauldian discourse analysis, and text-mining using natural linguistic processing. Each study can be reviewed

not only its originality but also the validity of analytical procedure and the ontological/epistemological assumption about the relationship between discourse and society.

The aim of the class is to gain a basic understanding of what sorts of sociological methodologies of analysis of discourse there are and

what presumption and limit each one has. Participants are supposed to read designated texts, to take part in discussions on them actively,

and to engage in a trial work.

Participants are not required an experience of studying discourses.

SOC500E1 - 0202

社会学研究 3

水島 久光

備考（履修条件等）：修士課程「社会学特殊研究 6」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学的探究を行う上で、必要な資料の探索はどのように行うのか。あるいは逆に資料との出会いからどのように社会学的な問いを立ち上げるのか。アーカイブや資料施設を利用した実践的な授業を行います。

【到達目標】

履修者は、アーカイブや資料施設を利用し、実際に問いを立て、分析実習を行い、小論文を作成します。今回は「アジア太平洋戦争」をテーマに、資料間の関連性と、メディア表現の課題を考えることにより、エビデンスに基づく論述スキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業は対面形式で実施する。

<前半>

7月30日（3、4限）アーカイブ研究と「戦争」（講義）

8月2日（3～5限）放送アーカイブと映像分析、研究テーマの設定（講義+演習）

8月3日（3～5限）戦争資料館と一次資料の保全、フィールドワーク（講義+演習）

<後半>

8月11日（3～5限）中間報告とディスカッション（演習）

8月12日（3～5限）最終報告と「戦争」研究の今後（演習+講義）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期集中

回	テーマ	内容
第1回	アーカイブ研究と「戦争」（1）	社会学研究とアーカイブの関係／デジタルアーカイブの発展史
第2回	アーカイブ研究と「戦争」（2）	アジア太平洋戦争に関する資料の保全・継承の課題
第3回	放送アーカイブについて	NHKアーカイブス、放送ライブラリーほかの施設利用について。
第4回	映像分析の方法	どのように映像に向き合うのか、映像文法と意味解釈。
第5回	研究テーマの設定	核となる映像の選択、研究計画の立案
第6回	戦争関連資料の現状	現状と課題サマリー。
第7回	都内（近郊）資料館のフィールドリサーチ（1）	2館以上を訪問。訪問メモの作成。
第8回	都内（近郊）資料館のフィールドリサーチ（2）	2館以上を訪問。訪問メモの作成。
第9回	中間報告（1）	問題設定、資料分析の報告。
第10回	中間報告（2）	問題設定、資料分析の報告。
第11回	改善に関するディスカッション	追加調査の計画。
第12回	最終報告（1）	得られた知見は何かについて報告。
第13回	最終報告（2）	得られた知見は何かについて報告。

第14回 まとめ講義

戦争の歴史をいかに継承していくか、討議。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。各回の授業時間内では、十分な資料の収集、フィールドリサーチ（訪問）、分析・検討はできません。次回の授業日までに到達すべきラインを示しますので、それを目指して準備を行ってください。

【テキスト（教科書）】

水島久光『戦争をいかに語り継ぐか：「映像」と「証言」から考える戦後史』（NHK出版、2020）

【参考書】

日本平和学会編『戦争と平和を考える NHKドキュメンタリー』（法律文化社、2020）

福岡良明『戦後日本、記憶の力学』（作品社、2020）

桜井均『テレビは戦争をどう描いてきたか』（岩波書店、2005）

【成績評価の方法と基準】

中間報告（4日目：30%）、最終報告（5日目：30%）、研究計画（2日目：10%）、訪問メモ（3日目：10%）の提出（計80%）+ ディスカッションの参加・内容（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

映像視聴可能なPCを各自用意のこと。

【その他の重要事項】

必要に応じてZOOMで連絡をとります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学、情報記号論、アーカイブ研究<研究テーマ>メディアと公共性、表現と倫理<主要研究業績>『戦争をいかに語り継ぐか』（NHK出版、2020）、『メディア分光器』（東海教育研究所、2017）など著書多数。

【Outline and objectives】

How to search for the materials you need to do sociological research? How to raise sociological questions from the encounter with materials? Practical lessons using archives and materials facilities.

SOC500E1 - 0203

社会調査法 1

中筋 直哉

備考（履修条件等）：修士課程「調査研究法」、公共政策学「社会調査法6」、サステナビリティ学専攻「社会調査法6」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学および政策科学の研究の実現場面で社会調査を活用するには、研究の目的および研究に適用する社会理論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを分析することが欠かせない。この科目では、社会学の調査研究の古典を複数講読することを通して、それら各々のユニークな問題関心とそこから導き出された独特の調査設計・データ分析法を学び、さらに履修者各自の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析法を構想し、相互討論を通して洗練することを試みる。

【到達目標】

受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づく修士論文の執筆計画を立案できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室で対面で実施（予定、なお対面困難な場合学習支援システムを通して参加方法を確認すること）。講義と履修者による発表および討論。毎回2時間の連続講義で、授業での発表についてはその都度授業内で、試験答案については事後に全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
1	総論 1	社会学・政策科学と社会調査
2	総論 2	社会調査の諸類型
3	総論 3	社会調査の倫理と真正性
4	フィールドワークの光と影 1	B. マリノフスキ『西太平洋の遠洋航海者』をめぐって 1
5	フィールドワークの光と影 2	同上 2
6	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる 1	A. クラインマン『八つの人生の物語』をめぐって 1
7	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせる 2	同上 2
8	テキストデータの分解・再構築 1	小林直毅編『「水俣」の言説と表象』をめぐって 1
9	テキストデータの分解・再構築 2	同上 2
10	社会関係を計量する 1	C. フィッシャー『友人のあいだで暮らす』をめぐって 1
11	社会関係を計量する 2	同上 2
12	政策科学に貢献する社会調査 1	辻中豊ほか『現代日本の自治会・町内会』をめぐって 1
13	政策科学に貢献する社会調査 2	同上 2
14	総括的討論	各自の問題関心に基づく調査デザインの発表と相互討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自テキスト以外の関連文献を収集し、比較検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上記授業計画の「内容」に記載

【参考書】

毎回ごとに授業中に指示

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 30%、報告の内容評価 30%、筆記試験 40%。よく考えられた報告を行うことと、筆記試験において修士論文に相応しい調査計画を立案できていることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】

最新の研究を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉地域社会学
〈研究テーマ〉地域社会の構造分析

〈主要研究業績〉『よくわかる都市社会学』（2013, ミネルヴァ書房）、『群衆の居場所』（2005, 新曜社）

【Outline and objectives】

This lecture aims to study various relations sociological theory and method by reading and discussing classics of sociology.

SOC500E1 - 0204

社会調査法2

斎藤 友里子

備考（履修条件等）：修士課程「統計分析法」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分析結果（解釈ではない）は統計ソフトの扱い方を憶えれば「一応だせる」ただし、分析手法や統計学に関する知識が欠如していれば、堂々と嘘をつくことになりかねない。また、データに基づき主張するには、実質的なテーマをどのように統計解析に落とし込むかが肝要となる。この授業では、モデルの基礎を数学的に学びつつ、実際にデータを用いて分析する。これにより、社会的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。「発見すること」「理論を確かめること」と分析の関連——計量研究における分析視角がもつ重要性についても理解を深めたい。

【到達目標】

数理統計学の基礎をふまえながら、主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本と論文への応用を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と SPSS を用いた実習とフィードバックにより、理解を深める。

本授業は、オンラインで実施する第1回授業を除き、対面形式で実施する（第1回授業のアクセス方法等詳細は学習支援システムの「授業情報」で通知する）。ただし、以下に注意してほしい。

- 1) 新型コロナウイルス感染防止のため、大学の指示で対面での授業実施が困難となった場合、SPSS を用いた実習は、法政大学多摩情報センターが提供するアプリケーション（「SPSS：リモートデスクトップ」）を用いて実施する。
- 2) SPSS はレポートの作成に必要となる。受講希望者は、対面授業が不可能となる場合に備えて初回授業時までに各自の責任で、自分のパソコンに「SPSS：リモートデスクトップ」をインストールし利用できるようにしておくこと。「SPSS：リモートデスクトップ」は学生専用のアプリケーションであるため、授業担当者はサポートできない。インストール方法の詳細は多摩情報センターウェブサイト「利用ガイド」を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期集中

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会学と多変量解析
第2回	散らばりの指標と推測統計の基礎知識	散らばりの指標に関する学習を通して統計学の表記法に慣れるとともに推測統計の考え方について概説する
第3回	線形代数の基礎知識	線形代数の基礎について概説する
第4回	多変量データとベクトル・行列	多変量データと線形代数の関係について論じる
第5回	説明変数・目的変数と二変量重回帰モデル	二変量重回帰モデルの考え方について解説する
第6回	重回帰理論の数学モデル	誤差項と重回帰係数・切片について線形代数を用い解説する
第7回	重回帰分析の導入	重回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第8回	最小二乗推定と多重共線性	重回帰モデルの推定方法の1つであるOLSと、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第9回	偏重回帰係数の検定とモデルの評価	偏重回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第10回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第11回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第12回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第13回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第14回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回～第4回 線形代数と統計学に基礎的な表記の予習・復習
 第5回～第14回 教材の復習と出された実習課題の遂行。
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。教材を配布するほか、授業中に適宜指示する。

【参考書】

ボーンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990; ウォナコット & ウォナコット『統計学序説』培風館、1981; 他授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

自身の研究に引きつけたテーマについて、授業で取り上げた分析を使用して執筆された小論文により評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 数理社会学・理論社会学・社会意識論

<研究テーマ> 共同性とフェアネスの関係、ジャスティスの社会学、公平評価の数理モデル。

<主要研究業績>

2011『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』（斎藤友里子・三隅一人編）東京大学出版会。

2011『「新自由主義の受容」は何により促されたか—市場化と価値意識』斎藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』東京大学出版会。

2011『不公平感の構造—格差拡大と階層性』斎藤友里子・三隅一人編『現代の階層社会 第3巻 流動化の中の社会意識』東京大学出版会（大槻茂実との共著）。

【Outline and objectives】

You can get some "output" of a statistical application software once you learn how to use it. However, if you have no knowledge of statistical theory or method per se, there is quite a possibility that you end up lying about what you have found through the analysis. If you do not want this, you need to know how to fit your research question into the framework of statistical analysis. This course will offer an opportunity to learn how to pursue your research question, quantitatively.

社会調査法3

田嶋 淳子

備考（履修条件等）：修士課程「質的資料分析法」、公共政策学「社会調査法8」、サステナビリティ学「社会調査法8」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査法の基本的理解と、その実践的力を身につけることを目的とする。まず、インタビューや参与観察などのフィールドワークや、ドキュメント分析などの質的調査法について、その発展の歴史を踏まえながら、現在の到達点について理解する。その上で、具体的に質的調査を行う上で重要な論点となりうることについて、実践的な観点から考察し、議論する。さらに、受講者自身の持つデータや、教員が仮に提供するデータをもとにワークショップを行い、具体的な手法を選び身につけるための手がかりを得るよう試みる。

【到達目標】

さまざまな質的調査法に関する基本的理解を踏まえたうえで、新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送、音楽などの質的データの分析法（内容分析等）を理解するとともに、その一部についての実践的な能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は6月5日より講義を開始します。詳細は学習支援システムのお知らせを参照してください。授業は基本的にオンラインで行います。質的調査法についての歴史と具体的な手法に関する現在の到達点について解説した上で、実際の質的調査において直面する課題や問題について解説します。その上で、受講生のデータあるいは各自の関心がある領域の質的資料を任を持ち寄り、具体的に分析するプロセスをワークショップ形式で経験します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	質的調査とは何か	量的調査との違い／調査倫理の問題
第2回	質的調査法の歴史と到達点1	インタビュー／参与観察／ドキュメント分析／観察
第3回	質的調査法の歴史と到達点2	エスノグラフィー／ライフヒストリー／GTA／会話分析
第4回	実践的課題1（資料を集める）	質問とは何か／ラポールをめぐる論争／調査者の立ち位置
第5回	実践的課題2（資料を分析する）	記録をつくる／テーマをたてる／データの特性を整理する
第6回	実践的課題3（資料を記述する）	書くとはどういうことか／調査倫理ふたたび
第7回	ワークショップ1	データ・質的資料の持ち寄り
第8回	ワークショップ2	最初の感想とそこから見えるもの
第9回	ワークショップ3	どう記録をつくるのか
第10回	ワークショップ4	テーマをたてる
第11回	ワークショップ5	データの特性を理解する
第12回	ワークショップ6	改めてテーマをたてる
第13回	ワークショップ7	ふたたびデータの特性を考える
第14回	総合討論	質的調査法の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を授業支援システムにアップします。

【参考書】

- 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 2016『質的社会調査の方法』有斐閣
- 佐藤郁哉,2008『質的データ分析法—理論・方法・実践』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加（40%）、演習課題への取り組み（60%）

【学生の意見等からの気づき】

非該当

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学

<研究テーマ>中国系移住者コミュニティの比較社会学的研究、移住第2世代問題

<主要研究業績> 2010『国際移住の社会学—東アジアのグローバル化を考える』明石書店、2019『イタリアにおける中国系ニューカマーズの定着とコミュニティ形成過程』『華僑華人研究』第16号、20-39ページ。2021『イタリアにおける中国系移住者家族の変遷』『移民政策研究』第13号掲載予定。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative survey.

SOC500E1 - 0207

社会学原典研究2

小林 直毅

備考（履修条件等）：修士課程「社会学原典講読」と合同

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生権力」だけにはとどまらず、『臨床医学の誕生』や『知の考古学』などの著作となって現れた Michel Foucault の思想を源流とする「身体社会学」の成果と課題を、この分野の基本的文献を読み解くことで考察する。

【到達目標】

20 世紀後半以降の社会学の思想的展開とその優れた実践的成果のひとつとして「身体社会学」を、「生権力」「身体」「言説」「知」「近代」「文化」「政治」「メディア」といった多角的視点から理解し、考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

今日では「身体社会学」の原典ともいえるもっとも基本的な文献のひとつである、Bryan S. Turner (2008) *The Body and Society: Explorations in Social Theory, Third Edition*, Sage Publications. を講読する。毎回の授業では、参加者が各自の関心に応じてテキストの章を分担し、それぞれの内容のレジュメを準備して報告、討論する。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

*本授業は原則として対面形式で実施するが、受講者の希望があればオンラインでの参加も可とする。なお、第1回の授業はオンラインを併用して実施するので、オンラインでの受講を希望する場合は、学習支援システムの「授業情報」に記載のあるメールアドレスまで、その旨、あらかじめ連絡すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代の社会学思想の成り立ちを考える。
第2回	The Mode of Desire	テキストの第1章を講読し、討論する。
第3回	Sociology and the Body	テキストの第2章を講読し、討論する。
第4回	The Body and Religion	テキストの第3章を講読し、討論する。
第5回	Bodily Order	テキストの第4章を講読し、討論する。
第6回	Eve's Body	テキストの第5章を講読し、討論する。
第7回	The End of Patriarchy?	テキストの第6章を講読し、討論する。
第8回	The Disciplines	テキストの第7章を講読し、討論する。
第9回	Government of the Body	テキストの第8章を講読し、討論する。
第10回	Disease and Disorder	テキストの第9章を講読し、討論する。
第11回	Ontology of Difference	テキストの第10章を講読し、討論する。
第12回	Bodies in Motion	テキストの第11章を講読し、討論する。
第13回	The Body and Boredom	テキストの第12章を講読し、討論する。
第14回	Epilogue: Vulnerability and Values	テキストの第13章を講読し、討論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】Bryan S. Turner (2008) *The Body and Society: Explorations in Social Theory, Third Edition*, Sage Publications.**【参考書】**Alan Petersen and Robin Bunton (eds.) (1997) *Foucault, Health and Medicine*, Routledge.Deborah Lupton (2012) *Medicine as Culture: Illness, Disease and the Body, Third Edition*, Sage Publications.**【成績評価の方法と基準】**

分担報告（50%）、討論（50%）の達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

メディア文化研究

<研究テーマ>

メディア／アーカイブ研究、水俣病事件報道研究

<主要研究業績>

『メディアテキストの冒険』（世界思想社、2003年）

『テレビはどう見られてきたのか』（共編著、せりか書房、2003年）

『水俣学研究序説』（共著、藤原書店、2004年）

『水俣学講義【第2集】』（共著、日本評論社、2005年）

『テレビニュースの社会学』（共著、世界思想社、2006年）

『「水俣」の言説と表象』（編著、藤原書店、2007年）

『テレビジョン解体』（共著、慶應義塾大学出版会、2007年）

『ポピュラーTV』（共著、風塵社、2009年）

『放送番組で読み解く社会的記憶—ジャーナリズム・リテラシー教育への活用—』（共著、日外アソシエーツ、2012年）

『メディア・リテラシーの現在—公害／環境問題から読み解く』（共著、ナカニシヤ出版、2013年）

『ニュース空間の社会学—不安と危機をめぐる現代メディア論』（共著、世界思想社、2014年）

『原発震災のテレビアーカイブ』（編著、法政大学出版局、2018年）

【Outline and objectives】

Graduate students will be able to read and understand the basic literature of sociology of body originating from Foucault's thought.

